

(1)Old Ironsides.

渠が初めて名を知られしは『老朽艦』の小篇なりき。一八一二年の海戦に大功をあげたる名譽の軍艦が老朽の餘破毀されんとするを見てあげし憤慨の聲にして、よく國民の言はんと欲する所を言ひ盡し、時に取つての好辭令なりしかば、廣く人の口より口に傳はりたり。渠は實に特別の時期に際し、その折にふさはしき文句を見出すに神腕を有し、輕妙自在、氣がきいておかしく、平易にして俗ならず。これにかけては如何なる大詩人にても果して其上に出るを得るや否やを疑はしむ。或る人の數ふる所によれば、ホームズの詩の約一半は祝賀の席、紀念の祭などに際して作られたるものなりとか。以てこの人の頭腦の飽まで社交的にして、機智の非凡なるを見るべし。されどその弱點も亦爰に存じ、廣きかはりに深からず、たとへば無數の針もて刺すが如く、チクリとはすれど終に急所の痛手を負はずが如き大作なく、要するに大詩人の列には入れ難し。その詩人として占むべき位地はブライオール、フッド

- (1)Autoer at the Breakfast-Table.
- (2)Professor at the Breakfast-Table.
- (3)Poet at the Breakfast-Table.
- (4)Over the Tea-Cup.
- (1)Dorothy Q.
- (2)Onc-Hoss Shay.
- (3)Last Leaf.
- (4)Chambered Nautilus.
- (5)La Grisette.

等の列なるべし。かれの代表的傑作としては『ドロロシイキエー』
『頭立ての馬車』『ラストリイフ』『チェムバードノーティラス』『ラ
グリセ』等をあぐべきか。

かれが散文の方面に打つて出てしは年齢殆んど五十に近き頃なり
き。かのロリエルが主管せる『アトランティックモン
その散文

スリイ』が發刊されたるは一八五七年にして、この時
ロリエルは直ちにホームズを招きて其一欄を托しぬ。かの有名なる
『オートクラット』はかくの如くにして初めて世に出てたり。ポスト
ンの一下宿の食卓を談論の舞臺とし、種々の人々をして質疑を發せ
しめ。かくの如くして作者自身の獨特の機才と智識とを何の遠慮も
なくさらけ出さしむる趣向なるが、この趣向は最もよく此人の長所
を發揮するに適し、爾來ホームズは米國散文中に動かすべからざ
る地步を占むるに至れり。之に續きては『プロフェッショナル』『ボ
ット』『茶話』等出て、ホームズの面目、機智、同情、詩思及び一種

の通俗的哲理は残りなくあらはれぬ。ホームズには又「エルシイ・ゲ
 ユンナー」「ガブリー・ディアン・エー・イン・チェル」等の小説あり、何れも此作
 者の科擧者としての研究と又その獨特の才思を見るべけれど前記の
 名著に厭倒されてさまたて人の注意にのぼらず。渠には又醫學上の著
 述も少なからざりき。一八八四年に少閑を得て海外に漫遊し、未知
 の崇拜者より大に歡迎されたる一事あるのみ。終生ボストンに住み
 一八九四年を以て歿せり。

(研究書目)

- (一) ローハム——
 Collected Writings of Lowell, 10 vols. (Alme).
 Complete Poetical Works (全十) Routledge, Warrne, Wind. その他にても出版せり。
 Juble for Gilies (Gay).
 My Study Writings, (Scott).
 Among My Books (Low).
 Essays on English Poets (Scott).
 Biglow Papers. (全十)

(1) Elsie Vener.
 (2) Guard n' nAngel.

Life of Lowell, by Sewdler, 2 vols. (Alme).

(二) キートン——

Works of Holmes, Prose Works in ten, Poems in 3 vols. (Low). X Chitto, Ghy, Kent, Scott. 等
 にても出版せり。

Breakfast Table Series (Rout).

Over the Tea Cups (Low).

Poetical Works of Holmes (Rout).

Elsie Venner (Houghton, Scott, & Co).

Guardian Angel (Houghton, Kent, Low).

(八) 其他の散文家

史策——バンククロフト——プレスコット——モットリイ——バァー・クマン——
 能辯家——ウエブスター——フィスク——アァー・ナー——ヘルン——その経歴
 ——其作品——(研究書目)

米國近代の散文を説くに當り、是非とも一瞥を與へざるべからざるは其史筆也。バンククロフト、プレスコット、モットリイ、バァー

史 年

(6) Conquest of Peru.
(7) History of the Reign of Philip II.

(1) G. Bancroft.
(2) History of the United States.
(3) W. H. Prescott.
(4) History of Ferdinand and Isabella.
(5) History of the Conquest of Mexico.

クマンの如きは、何れも研究の精到、文筆の練達を以て鳴り、英國第一流の史家と比較されても何等の遜色を見ず。此點より論ずれば、彼等は米國の純文學者の多くよりも其位置甚だ高しといふべし。ジョージ・バンクローフトは史家として最も實質あるもの、其著『合衆國史』十二卷は周到なる用意と哲學的推考の餘りに成り、植民時代と革命時代の最大典據として最も尊重せらる。其の文章は嚴正素朴にして一點浮華の痕なし。ウィリアム・ヒックリング・プレスコットは一面に精細嚴密なる事實の蒐聚につとめ乍ら、他面に於ては非凡なる詩的想像を雇ひて、極めて繪畫的なる彩筆を振へる人。アーヴィングと同じく眼光を西班牙に注ぎ、『ブルデ・イ・ナンド・イ・サベラ時代』、『メキシコ征服』、『ペルー征服』及び未完の『フイリッポ二世の時代』等を出せり。其記述する所の題目は無数の活劇と珍奇なる材料とに充滿せるが故に、最も此人の性情と筆鋒とに適し、正史にして殆んど小説を讀むが如き興味を與ふ。プレ

(1) J. L. Motley.
(2) F. Parkman.

スコットは年尚ほ若かりし時殆んど失明せしを以て、平生其描かんとする事件を腦裡に描くの習慣を生じ、かくて其筆は一層繪畫を爲せしなるべし。ジョン・ロスロップ・モットリイは最初筆を小説に染めしが其性情に協はざるを見て歴史家となり、フイリッポ二世の暴政に對する和蘭人の奮闘の歴史を作れり。これ其事實の獨り戯曲的興味に富みたるのみならず、又自由獨立の戦争たるのみならず、人權の擴張てふ大問題の解決に資する所あるを認めて也。其著は三大部に分れる。曰く『和蘭共和國の勃興』、『ユナイテッド・テザラランド史』、『ジョン・オプ・ザ・イチゼルトの生涯』是也。この書編成の爲めに渠は多年海外に留まりて史料を蒐聚し、地理を調査し、備さに苦心を重ねぬ。其文體は聊かカーライルの趣ありて彩華絢爛、生氣鬱勃最も戯曲的にして、描ける人物と光景とは躍々として讀者の眼頭に現出す。フランシス・パークマンはプレスコットが米國の南部の歴史を書きたるに反して、眼光を北部に注ぎ、新世界の保有に關する英佛

- (1) Pioneer of France in the New World.
- (2) Jesuits in North America.
- (3) La Salle.
- (4) Old Regime in Canada.
- (5) Count Frontenac.

- (6) J. C. Calhoun.
- (7) H. Webster.
- (8) E. Everett.
- (9) W. Phillips.
- (10) C. Sumner.

兩國の争闘を明かにしたり。之が編成の爲めには羸弱の身を起して親から印度人の部落に赴き、苦るしき経験を積みつゝ史料をあつめ、其結果は『新世界に於ける佛國の先鋒』『北米に於けるデモン・イット』『ラ・サール』『加奈陀の舊政』『カウント・フロンテナック』其他數卷となりてあらはれたり。その文體はやゝ華飾に過ぎたるかと思はるゝ迄にて、最も讀者を喜ばすの力あり。

奴隸廢止問題が米國人士の血を湧かすや、爰に辯舌を以て立つも
能辯家
の陸續輩出し、南部にはカルフォーンあり、北部には
ウエブスター、エヴェレット、フィリップス、サムマ

一等あり。就中ウエブスターが米國の生みたる隨一の大雄辯家なるは何人も知る所なるべし。多くの雄辯家と稱せらるゝものゝ言辭も之を紙に寫し見れば平々凡々一奇なきが常也。然るにウエブスターの演説の絶品に至りては、思想の深重、論鋒の銳利徹透、詞藻の豊富、修辭の巧妙悉く之を備へて優に一篇の美文をなす。かれの雄辯はバ

トリック・ヘンリーなどの雄辯が單に傳說的なるに反して、不朽也。事實也。

ダァーウィン及びスペンサーの哲學の解説者として名あるは近時の
散文家
近時の
ン・フィスクあり。されど渠は單に解説者たるに留まらず、哲學的見地より歴史、教育其他諸種の問題を討究

し、述作頗る多し。近くは米國史の著あり。ワナーナーは嘗て『ハーバー誌』の主筆たりし人、一九〇〇年を以て歿せり。常に愉快に、常に靜平に、常に獨創的態度を以て、觀察し、沈思し、批評して讀者と共に樂びの風あり。その初めて名を知られしは『夏の園』にして、可笑味全篇に漲る。『無人境』『ナイル河上の冬』『インゼンツァント』等は觀光記にして、一種の冒險、奇譚に富み、『ビーイング・エ・ポイ』は少年文學の白眉、『彼等の遊歴』は米國の避暑地をのべて中に愉快なる戀愛譚を挿入せり。『ワシントン・アーヴィング傳』又佳作の稱あり。最後に余は先師ラフカディオ・ヘルンに就きて記述し、筆

- (6) In the Levant.
- (7) Being a Boy.
- (8) Their Pilgrimage.
- (9) Lafcadio Hearn.

- (1) J. Fiske.
- (2) C. D. Warner.
- (3) My Summer in a Garden.
- (4) In the Wilderness.
- (5) My Winter on the Nile.

を擱かんとす。

ラフカディオ・ヘルンの文籍を米國におくことの適否につきては必ず議論多からむ。米國は其誕生の地にもあらず、又ヘルン

其終焉の地にもあらず、只一八六九年より九〇年迄の約二十年の歲月を爰に送り、又其著書の大部をば爰に出版せしといふの緣故に過ぎず。米國に比すれば一身上の因縁は我日本の方遙かに深く、吾人の情は小泉八雲を以て我文壇の人として遇せん事を要求す。されど翻つて思へば、ラフカディオ・ヘルンは要するに世界のラフカディオ・ヘルンのみ。其眞實の籍は米國にもあらず、又日本にもあらずして、美文の世界に在り。今米國文學を叙するに當り、かりに其坐すべき一席を爰に設くるも亦可ならずや。

凡そ古來文學者多しと雖とも、此人の如く奇妙なる經歷を有するは稀れ也。父は愛蘭の軍醫にして、軍隊附となりて希臘駐在中該地の一少女を娶り、かくて一八五〇年を以

その經歷

(1) Santa Maria.
(2) Leucadin.

その佛國留學と感化

米國行

て男兒をあげぬ。ラフカディオ・ヘルンは是也。ラフカディオなる名は、其生地なるサンタ・マウラ島のリーカディアを取れる也。その後數年にして一家族は愛蘭に歸りしが、いつしか家庭の間に風波を生じ、其結果終に父母の離縁となり、ヘルンは一人の從伯母の手に引き取られぬ。從伯母は羅馬教の信者にして、ヘルンをして羅馬教の僧侶たらしめんとし、其十四歳なる頃之を佛國巴里の某神學校に送りしが幼弱にして神經質なる愛蘭の少年は輕侮虐待の燒點となりしもの如く、慍々として樂まざりき。其一生を通じて流貫せる排耶蘇教の精神は蓋しこの邊に胚胎したりといふべきか。然れども此佛國留學は佛語佛文學につきて深大なる智識を得せしめ、其利益決して尠少なざりき。既にして從伯母の破産は此孤獨の少年をして、いよ／＼天下に依るべきものなからしめ、これより神學校を辭し、運命を米國の新世界に賭せしむるに至れり。其紐育に上陸せるは一八六九年、即ちその十九歳の時なりき。最初は備さに艱苦を嘗め、下賤

- (1) Stray Leaves from Strange Literature.
- (2) Some Chinese Ghosts.
- (3) Chita.
- (4) Two years in the French West Indies.

の勞役にも服し、眠るに家なき境遇をも經しが、其天賦の文才は長く囊中に埋るゝ筈なく、シンシンナティより、ニュー・オルレアンス、ニュー・オルレアンスより佛領西印度のマルテニック島等に移り住みて、或は新聞雜誌に、或は單行書に其清新にして情思脈々たる麗筆を振ふに及びて米國文壇は次第に驚かされ、稀有の一天才の出現を認むるに至れり。米國滞在中に出版せられし書物は、『ストレーリィ・イヴス』『支那の妖怪』『チタ』『西印度の二年』其他雜筆、小説數篇あり。一八九一年デリアン・ホーソルンはその著米國文學史に「ヘルンは新進の作家なれど、その『ストレーリィ・イヴス』『支那の妖怪』さては諸種の短篇、旅行記等は、渠が熱烈なる想像力に富めるを示し、今後逸品を出すの望あり」と早くも豫言せり。この豫言は果して的中しぬ。

ヘルンが米國を後にして我邦に渡來せるは一八九〇年即ち明治二十三年のことなりき。初めは松江中學の英語教師となり、爰に本邦

ヘルンの風采

の婦人を迎えて妻とし、又名を小泉八雲と稱し、次いで熊本高等學校に教鞭をとり、繼て明治三十九年の初秋を以て帝國大學の講師として來任せり。廿九年は著者が大學に入學したる年にして、師が初めて帝國大學の教室にあらはれたる當時の風采は宛として眼裡に映ず。たゞ見る身材五尺ばかりの小丈夫、身に灰色のセビロをつけ、折襟のフランネルの襯衣に、細き黒きチクタイを無雜作に結びつけたり。顔は銅色、鼻はやゝ高く狭く、薄き口髭ありて愛くるしく緊まれる唇邊を半ば蔽ひ、顎やゝ尖り、額やゝ廣く、黒褐色の濃き頭髮には少しく白を混へたり。されど最も不思議なるは其眼也。右も左も度を過ぎて廣く開き、高く突き出て、而して其左眼には白き膜かゝりてギョクと動く時は一種の怪氣なきにしもあらず。されど曇らぬ右眼は寧ろやさしき色を帯びたり。やがて胸のポケットより虫眼鏡様の一近眼鏡をとり出て、之をその明きたる一眼に當て、やゝさびしく、やゝ羞色あり、されど甚だなつかしき微笑を唇邊に浮べ

- (1) Glimps of Unfamiliar Japan.
- (2) Out of the East.
- (3) Kokoro.
- (4) Gleanings in Buddha-Fields.
- (5) Kwaidan.

(6) Japan: an Interpretation.

つゝ、余等の顔を一瞥されし時は、事の意外に、一種滑稽の感を起さざるを得ざりき。突如その唇よりは明かなれど鋭くはあらぬ音聲入り出てぬ。英文學史の講義は始まれる也。出づる言葉に露よどみたる所なく、句々整然として珠玉をなし、既にして興動き、熱加はり、沿々として數千言、身邊風を生じ、坐右幽玄の別乾坤を現出するに及びて、余等は全然その魔力の爲めに魅せられぬ。爾來三年の間余等は一回として其講義に列するを以て最大の愉快と思はざるはなかりき。

師が帝國大學に教鞭をとれるは前後九年に及びしが、既にして或る事情の制する所となり、學生等の留任運動もその甲斐なく、明治三十七年の春を以て辭任し、しばらく早稻田大學に入りしが、同年九月廿六日を以て俄然病みて東京大久保の自邸に逝けり。

本邦渡來後に出だせる著書は「日本啓見記」二卷に始まり、「アウ・ト・オブ・ゼー・イースト」「心」「佛佗の國」等をはじめ近くは「怪譚」「神國」

其作品

等其數十有一種にのぼる。何れも短篇の集合にして、種類によりて大別すれば、専ら日本の紹介を主とせるものと、日本の材料をとりて専ら自己の情想を吐露せるものとの二種となるべし。固より此區別は大體の區別にして、前者にも作者の情感の加はれるあり、後者にも自から紹介的分子は加はらざるにあらず。だゝ根本的主旨に於て輕重の差異あるのみ。世界に對する日本の紹介者としてのヘルンは天下無双也。少くとも從來あらはれたる東西の作者中共に比肩すべきものを見ず。本邦の人情風俗、詩歌傳説の美はさらにも言はず、美術工藝、禽獸蟲魚、山川河海等殆んどあらゆる方面に亘りて紹介せずといふことなく、而して其紹介の筆は乾枯なる現俗的筆法にあらずして、常に夢の世界、詩の天地を通過し來れる五彩燦爛の靈筆也。世界は之によりて毫も醜惡なる日本を識る能はずといへども、美なる日本、雅なる日本は遺憾なきまで紹介せられたり。されどヘルンの集中不朽なるべきは、或は短篇

(1) Dream of a Summer Day.
(2) At a Railway Station.
(3) A Living God.

小説の體をかり、或は散文詩として、日本の材料もて自己の情想を吐露したるものにあるか。幽玄神秘なるその空想と、優雅靈活なる其詞藻とは最もよく是等にあらはされて、世界絶無の妙文字を成す。かの『夏の日の夢』『停車場にて』『生きたる神』の如き是也。是等は其の數多からず。

以上余は單に、出版されし著書につきて概説したれど、出版せられざりしものも亦少なからず。就中帝國大學にて講ぜし文學史、評論等は、よく講ずる所の作者と同化して、沈思冥想の後、全然腑肝より吐出したるものなるが故に、時に不正確偏頗等の微瑕なきにはあらざりしも、概して其同情の深厚と、趣味の豊富と、論斷の愷切とを以て天下に類を絶ち、殊に我邦の研究者を益すると極めて大なりき。著者の如きも、今本書を編むに當りて、先師の恩惠の今更に多大なるを感じたること幾回なるを知らざりし也。

(研究書目)

- Bancroft's History of United States (Low).
 - Works of Prescott (Rout, Bohn, Sonnenschein).
 - Prescott's Complete Works, 12 vols. (Gibbings).
 - Molloy's Dutch Republic (Bohn, Sonnenschein).
 - Collected Works of Parliament (Alce).
 - Fisher's Great Speeches and Orations (Little Brown).
 - Works of Riske, 10 vols. (Alce).
 - Being a Boy (Gwy).
 - A Little Journey in the World (Harper).
 - Golden House. (Gwy)
 - In the Wilderness (Low).
 - My Summer in a Garden. (Gwy)
 - Roundabout Journey (Chatto).
 - That Fortune (Harper).
 - Their Pilgrimage (Harper, Low).
- ハルンの著書は本邦に流布し居れば爰には略す。又その評價には『帝國文學』小泉入雲號あり。

米國文學史終

英詩の種類及韻律法

上篇 英詩の種類

(一) 叙事詩

叙事詩の根本的特質は、第一過去に起りたる事柄（即ち歴史）若
 その根本 しくは過去に起りたりと想像せらるる事柄（即ち神話傳
 的特質 説）に基くこと、第二その製作者が寧ろ國民全體にし
 て、個人にあらざることは是也。抒情詩が主観的にして且つ現在に關
 すると全然相反す。されば叙事詩の本來の要素は全然想像力と記憶
 力是也。

叙事詩の結構は皆簡單にして、句調流麗諷誦に適し、又其韻律法
 は首尾一貫す。事實を語るを目的となすが故に訓戒の意を寫するこ
 となく、又篇中の事件は多く短期の中に密聚す。『イーリアド』中の

(1) The Epic.
 (2) Iliad.

英詩の種類及韻律法

主要なる事件が数日間に纏まりてあるが如きは是也。
尙ほ枝葉に亘りて其特質を挙げなば、叙事詩が通例挿話を設けて可及的に華彩と變化とを求むること、對話をかりて物語の興味を助くること、劇詩とは正反對に人物の性格よりも寧ろ事件の描寫を主とする事等なるべし。

最初の叙事詩は、天然自然に國民の中心より發生せる事、さながら鳥蟲の歌に似たりけむも、既にして理性の發達は詩歌の外に他の學問を生み、以前は人民皆詩人たりしに、漸くにして詩人は或る特殊の人にのみ限らるゝに至れり。而して其詩人なるものも、前日の如く無意識に詩句を唱ふるにあらずして、漸く自覺的となれり。詩を作らんとして作るに至れり。今日存在する所の大叙事詩は、蓋しかゝる時代の入口にて作られたる也。作者の人物は未だ作中にあらはれねど、從來四散分離せる多くの材料を蒐聚し、之を其豊富なる想像の熔爐に入れて首尾連

文字に留められて大叙事詩する

至れり。而して其詩人なるものも、前日の如く無意識に詩句を唱ふるにあらずして、漸く自覺的となれり。詩を作らんとして作るに至れり。今日存在する所の大叙事詩は、蓋しかゝる時代の入口にて作られたる也。作者の人物は未だ作中にあらはれねど、從來四散分離せる多くの材料を蒐聚し、之を其豊富なる想像の熔爐に入れて首尾連

- (1) Beowulf.
- (2) Epic Poetry.
- (3) Layamon.
- (4) Brut.
- (5) Canterbury Tales.

後世の叙事的詩篇

(6) Prioresses Tale.

絡ある一大長篇となせる所に其大手腕を見るべく、決して何人にもなし得べき仕業にはあらざる也。『ビィオウルフ』の如きは其好適例也。

然るに年代を経るに従ひ個人的分子は益々多きを加へ、作者は獨り其構成したる詩の形式のみならず、材料をも自己の所有として要求し、且つ本來の叙事詩とは趣を異にせる新方面に向つて活動するに至れり。左に是等後世の叙事的詩篇を類別して説かんとす。

國民的英雄又は彼等のなせる戦争を謳歌する傾向は依然として後世迄勢力を占め、之に關する詩篇は引き續きて生れた

もの也。其風格は大に古代の叙事詩に接近す。之と同時に勢力ありしは寺院の傳説にして、舊約全書の一部は韻文に直されたり。チロイサーの『カンタベリイ物語』中なる『尼の物語』の如き之に屬す。中世時代よりは又多少の史的根據を有する傳説を材とせる詩篇多し。

- (1) Allegorical Poems.
- (2) The Pearl.
- (3) Sir Gawayne and the Green Knight.
- (4) The Faery Queene.
- (5) Fable.

シヤ、レメーション物語、歴山大王物語、トロイ物語等は其先驅也。チロイサーの作中にも之に屬せしむべきもの多し。後世歴史的趣味の普及に伴ひ、かゝる詩篇の數は益々多く、モリス、スコット、ロングフェロー、バイロン、サウジイ、テニスンの諸作をはじめ一々列舉し難し。最後に近代に入りて、神變不思議なる傳説の復活を見たり。コールリヂ、スコット、ロセッティ等の諸作是也。

諷諭詩と稱するものは、史的事實を根據とせず、叙事詩としての本來の性質を或る程度迄失ひ、大に創造力の働ける一種の叙事詩也。即ち或る事件の連続が起れりと單に假定し、而して其中に何にかの意味(多くは訓戒)を寓す。初期の英文學にてはチロイサー、ダンバーなど屈指の作者也。無名氏の「真珠」、ゴウエン卿と緑衣騎士」等も之に屬す。然れども英文學中

この種の詩中の巨擘といはるゝはスベンサーの「神女王」是也。此種の詩にて狭き範圍に限られたる教訓的寓話あり。重に禽獸な

- (1) Essay on Criticism.
- (2) Essay on Man.
- (3) Excursion.
- (4) Lines written above Tintern Abbey.
- (5) Cowper's Task.

どを材料とし、ある訓戒の意を寓す。其根據は東洋にありしもの、如く、中世時代に歐洲に輸入されたり。佛のラフフォンテーンの如きは、此方面の名家也。

諷諭詩にあらはれたる訓戒的分子が更に増加し、全體が作者の述懐にして物語の分子の絶無なる詩篇の世に現はるゝに

至れり。即ち叙事詩としては甚だしき變體なるが、兎に角人生の經驗を土臺として、訓戒を試みたるが故に、叙事詩に籍を置かるゝのみ。其發生は中世時代に見出すべきも、十八九世紀に至りて益々多し。ボープの「批評論」「人間論」等は其中の最も純なるもの也。ウアイズウァースの「逍遙」「ティンタイン僧院」、クーパーの「タスク」等も此種類に入るべきが如し。元來述懐詩は詩の區域の限界に立てり。一步をあやまれば詩にあらずして單に韻文の議論となり、又訓戒となる。かゝる似而非詩篇は何れの文學にも榮々たり。

叙事詩は「自然界の叙事詩」といふべきか。普通の叙事詩が一事

叙景詩

件より他の事件に移るに反し、一物象より他の物象に移り行く。叙景詩は普通述懐詩と結合せる場合多し。トムスン(1)の『四季』、ゴールドスミス(2)の『寒村行』『旅客』の如き其適例也。普通の叙事詩又は述懐詩中にも叙景的分子の混入せざるは稀也。叙景詩は人事的關係を有し、人の情感に訴ふるものあるを要す。若し之れなからんか、一の目錄と化すべし。

田園詩は叙事叙景の分子に多少劇詩的分子を加味す。元來作者は

田園詩

強いて自己を牧羊者に擬して想を構へ、句を鍊り、最初より不自然のものなれば、變妙不調和に陥りたるもの

の多きは止むを得ざる事なるべく、かのポープ(3)の如き随分無理なる

田園詩を作れり。されど中には見るべき作も出て、スベンサー(4)、ブ

ラウン(5)、シドニー(6)の如きは斯の方面の代表者たり。

之と同性質のものにて、一層自在なるはアイディル(7)と稱せらるるものにして、通例素樸にして靜平、一局面を描くに止まる。バルン

(1) Seasons. (2) Deserted Village. (3) Traveller. (4) Pastoral Poetry. (5) Idyll.

(1) Cotter's Saturday Night. (2) Idylls of the King. (3) Satiric Poetry. (4) Parody.

ズ作『農夫の土曜日の夕』などはアイディル中の白眉也。テニスンの『アイディルス・オブ・ゼキング』は標題こそアイディルなれ、決して普通のアイディルにはあらず。吾人は寧ろ之を傳說的叙事詩の中に屬せしめんとす。

諷詩も亦述懐詩と同じく純粹の叙事詩にあらず。叙事詩は客觀的

諷詩

也。褒貶の意を加へずして有りのまゝを寫すを主とす。

然るに諷詩にありては、主觀的に事の可否を判断し、批評し、而して概して其價值を縮少せしめんとす。叙事詩はやゝもすれば其寫せる主人公を大袈裟にせんとし、諷詩は却つて其缺點を拾ふて得意とす。英文學にて諷詩を以て有名なるはマーストン(1)、ドン(2)、パットラー(3)、ベンジョンソン(4)、ポープ(5)、ドライン等其他頗る多し。

パロディといふは諷詩の一體にして、片々たる小事件を記すに崇重なる叙事詩の形體を以てす。ポープの『髪ぬすみ』はこの種の作

- (1) Truvesty.
- (2) Paradise Lost.
- (3) Hyperion.
- (4) Ballad.

中の世界的傑作也。トラベステイといふは、之とは正反對に、大事件を遇するに輕き筆法を以てす。ブライオルに此種の作あり。純粹の大叙事詩は通常國民の間より發生せるものなるが、後世の近代叙大詩人にして、かゝる國民的叙事詩に模し、之と同様の事詩の作を大成せんと努力したるもの、大抵各國に存在す。古典にはヴァーヅル、アリオスト、タッソー等を見、英國にてはミルトンあり。其『失樂園』は氣魄の雄大、格調の崇高を以て世界有數の大叙事詩たるを失はず。キーツの『ハイビリーオン』も未完なれどミルトンの下にあらずと稱せらる。若しそれ古代の大叙事詩の翻譯者にいたりては英米文壇にその人頗る多し。一々擧げず。民謠は大體に於て國民的叙事詩と其性質を同す。たゞ異なる點は、その重みと力との足らざる一事のみ。蓋し古代に民謠ありては、王侯貴人といはるゝものは、樂人を其邸宅に招きて音樂にあはせて歌を歌はせたり。國民的大叙事詩の發生は

- (1) Robin Hood.
- (2) Battle of the Baltic.
- (3) Lord Ullin's Daughter.
- (4) Lays of Ancient Rome.
- (5) Ancient Mariner.

此邊に萌せり。後此習慣の廢絶するに及び、樂人の得意場は田夫野人となり、之に連れて歌謠の品質も下落し、終に今日殘る所の民謠となれり。即ち民謠は下民の叙事詩也。その中の傑出せるものが、質樸自然にして内容豊かなるは故ありといふべし。ロビン・フッドの如きは屢々民謠の題目とせられたり。其他無數に存在す。叙事詩が後世に至りて摸擬せられしと同じく、民謠も亦摸擬せられ、近世の近代の英文學には極めて是等の詩篇が豊富也。戰爭に民謠體關するものにはキアメルの『ポールティックの戰』あり。戀愛に關するものには全人の『ロルド・ウリンの娘』あり。歴史的長篇にはマコーリーの『古羅馬の歌』あり。戯曲體をとりたるものにはブラウニングの諸作あり。中世の迷信、中世の精神をさながらに傳へたる大作者はロセッティを推すべく、又コールリヂの『古海客』の絶唱あり。其他ゴールドスミス、テニスン、キーツ等非凡の名手枚擧に遑あらず。近代英詩の妙を味はんとせば、少くとも是

(C) Lyric Poetry.

抒情詩の生命

抒情詩の形式

等諸家の民謡體詩篇を看過すべからず。

(二) 抒情詩

叙事詩は外界に屬し、物語るを本旨とす。抒情詩は全然之に反す。抒情詩は主觀的にして、個人の胸奥より出て、事件を物語らずして、感情を言ひ表はす。叙事詩よりも發達したる時代の產物也。小兒及び未開の人民は單に四周の物象を以て満足す。發達したる人間は自己の内界を有し、希望、慾情、喜怒哀樂の別天地に生活す。是等の感情を言ひ表はすが抒情詩の仕事也。従ひて、言ひ表されたる感情の眞偽如何は抒情詩の善惡を判斷すべき一大試金石也。實際の感情が飾らず、作らず、過不及なく、而かも想像の翼をかり諧調の美を盡して巧妙に言ひ表はされて而して後その抒情詩は初めて取るべし。

叙事詩と抒情詩とは、其根本に於て斯く異なるが故に其形式に於

抒情詩の分類

(1) Hymn.
(2) Ode.
(3) Eternal Goodness.

ても亦異ならざるを得ず。前者は巨流の如く廣大にして靜平也。後者は噴水の如く一點に集注す。前者の韻律法は大抵一定して傳來のものにより、後者の形式は無數にして、作者は自己の技倆次第にて自由に新體を創出するを得。

抒情詩を其言あひらはす所の感情によりて類別すれば三となるべし (一) 眞率を主とするもの (二) 狂熱的なるもの (三) 述懐的なるもの、是也。若しそれは等の感情を誘ふ所の境遇に至りては千差萬別限りなけれど、これ將た類別し難きにあらず。左に記す所即ち是也。

眞率に宗教的情感を吐露したるものは多く讚歌に求むべし。崇高

宗教的 熱烈の感情の迸れるはオードに見るべく、述懐的なる

抒情詩 ものはジョージ・ハーバートの諸作文はホイットリアー

の『永久の善』など適例なるべし。

御國自慢は何れの國にもある習ひ、發して國歌となり、軍歌とな

- (1) Cavalier Tunes.
- (2) Ye Mariners of England.
- (3) Troubadours.
- (4) Minnesinger.

愛國的 　　り、その國民の口より口に傳唱せらる。英文學にては、
 抒情詩 　　ブラウニングの『騎士曲』、キアメルの『爾英國の水夫
 達』等をはじめ、ミルトン、バルンズ、ウァズワース、コールリ
 デ、テニスン等皆佳什を殘せり。
 抒情詩の本場は實に戀愛の方面に在り。英國抒情詩の大半は皆之
 戀愛的 　　に屬す。戀の光と戀の間、其千差萬別の姿と心とは限
 抒情詩 　　りもなく詩にあらはれて、今日に至るも盡くるを知ら
 ず。今より六世紀のむかし、佛國にトルバドル派、獨國にミン
 テゼンゲル派のあらはれし頃は、戀歌の黄金時代といふべきか。當
 時にありては、戀歌を作り、之を巧妙に歌ふはあらゆる貴族のなく
 てならぬ資格と見なされ、獅子王リチャルドの如きも其選には漏れ
 ざりしとか。下りて、エリザ朝に至り、英國の戀歌は、其絶頂に達し、雨
 後の筈の如く續出せる歌謠の叢書中にこの種の名什の甚だ多きは、
 エリザ朝の文學を覗きたる人の熟知する所なるべし。近代にてはム

- (1) Cuckoo-Song.
- (2) Cloud.
- (3) Cuckoo.
- (4) Daffodil.
- (5) Autumn.

自然の
 詩には
 多量の
 抒情詩
 的の選
 多

- (6) Ode to Evening.
- (7) Ode on Intimations of Immortality.

ア、バルンズ等名手たり。
 古るくより有名なる『郭公の歌』は對自然の抒情詩の先驅を以て目
 對自然の 　　すべし。シェリーの『雲』、ウァーズワースの『郭公』
 抒情詩 　　『水仙』キーツの『秋』等皆之に屬すべく、何れも述懐
 の分子を加味せり。オード中にはコリンズの『夕の歌』ウァーズワ
 ースの『靈魂不滅の暗示』等名あり。大部は自然の讚美に充てり。
 此種の詩中、純述懐のもの最も多數なるべきは自然の數といふべく、
 人生と自然界とは最も密接の關係を有し、一方を想へば自から他方
 を想ひ出さざるを得ず。例へば朝露に對して人士の無常を感ずるの
 類也。バルンズが延命菊を堀り返して自己の運命に引きくらべたる
 も同一轍に出づ。ウァーズワース、キーツ、シェリー、ミルトン
 等の集中には最も多くこの種の傑作に富み、英文學中無類の神品の
 あるものは實に爰に見出すべし。
 悲傷詩といひたるのみにては甚だ漠然たる憾あり。戀愛詩の中な

(1)Adonis.
(2)In Memoriam.

悲傷詩

どにも同時に之に属するものあるべし。さばれ抒情詩人は一詩を作るに當りて必ずしも唯一の感情のみを言ひ表はさねばかゝる分類上の混雜は多く免れざるべし。そも悲傷の原動は死也。されば吾人は爰に主として死に關する抒情詩を指すべし。此種の詩は其性質上咄嗟の感情を表出するものならざるべからず。佛國の某詩人が其友人の愛妻に先立たれしを見て悼歌をものせしが、脱稿迄に三ヶ年を費し、詩の出来たる時には、友は既に再婚せしてふ滑稽あり。

古人は人の死を悼むに叙事詩を以てし、死者の功績を頌讚せり。近代にありては抒情詩を以てす。シェリイがキーツを痛むに『アドニス』を以てし、テニスンがハラムを哭するに『インメモリアム』を以てせるが如き是也。但し後者は此種の詩としては無類の長篇にして、且つ長年月に亘りたれば、叙事、述懐の分子も甚だしく加はりたり。

(1)Elegy.
(2)Castaway.
(3)Gray's Elegy.
(4)Ode to Duty.
(5)Progress of Poesy.

(6)Alexander's Feast.

純述懐詩

普通に輓歌と稱せらるゝもの、中にも種類多く、その感情個人的にして痛烈なるあり。クーパーの『キースタウエー』の如き是也。又普遍的にして沈靜なるあり。かの有名なるグレイの『エレジイ』の如き是也。

叙事詩に於けると同じく純粹の述懐的抒情詩は訓戒に陥り易く、

詩の範圍を脱したるが多けれど、中には高遠の感想を傳へて貴重なるものあり。ウァーズウァースの『本務の歌』の如き是也。アーノルドの集中にも述懐的のもの多し。グレイの『詩の進歩』ドライデンの『アレキサンダースフィースト』の如きも、叙事詩の分子を加へたる述懐的抒情詩といふべし。

人間は交遊團樂の性質を有するが故に、その目的を助けん一手段として坐興の歌社交の歌は生れたり。沙翁の戯曲中に

坐興の歌
社交の歌
クーパー、ホームズ等斯道の名手たり。

(1) Sonnet.
(2) Epigram.
(3) Epitaph.

大體に於て抒情詩には一定の形式なく、又長さなけれど、稀に特
殊の型に倣めて作られたるものあり。ソネット體は
抒情詩の 最も普通に見る所のもの也。此體は其行數十四行に限
他の形式 られ、又押韻にも六ヶ敷束縛あり。作者は其言はんとする所をば、
手際よくこの型中に盛らざるべからず。其所に困難も横はり、又手
腕もあらはれ、我邦の短歌などを作ると、大に手加減を全くすべし。
元來ソネットは以太利のものなりしを、サリイ、ワイアット、シ
ドニイ、ダナル等が率先して輸入せる也。この體のくはしき事は後
にのぶべし。
エピグラムはソネットよりは自由なれど、通常四行以上に亘ら
ず。相對句若くは言葉の引かけを用ひ、機拔を以て生命とす。我
邦の狂句川柳などに類を見出すべし。碑銘は墓石の上に記すもの、
若くは之に擬したる句也。真面目なるが常なれど時に滑稽諷刺を試
む。

(4) Dramatic Poetry.

(三) 劇 詩

叙事詩は過去を語り、抒情詩は現在に關す。然るに戯曲は此二要
劇詩の 素を合併し、現在を以て過去を傳ふ。見よ戯曲に仕組
特 質 める事件は叙事的根據を有すれども、其事件は皆吾人
の眼前に發展するにあらずや。戯曲には又客觀、主觀の兩面あり。
作者の思想感情は全然作中に埋没し、人はたゞ縮寫されたる人生の
一部を見る心地す。これ即ち戯曲の客觀的半面也。然るに篇中の人
物は各自の面目を保持して、自己特有の感想を吐露す。これ即ち戯
曲の主觀的なる他の半面也。之を要するに戯曲は全體として、叙事
詩にして、その各部分は皆抒情詩也。

戯曲は人事を模寫したるものなるが、實際起る所の人間の行爲は
戯曲の 混亂紛糾を極めて統一なく秩序なく、それを只有りの
三一致 せゝに寫したりとて戯曲作家の能事畢れりとは決して

Three Unities.

行動の一致

言ひ難かり。かゝる混亂の行爲をとりて附屬的に使役するは可也。例へば一揆の蜂起せる場合の如き是也。然れどもそれ以外に一層高尚なる目的なかるべからず。換言すれば、一篇の戯曲の中にあらはるゝ所の事件は、或る一個の中心點に向つて進行せざるべからず。所謂行動の一致是也。此約束は通常世に稱する所の「戯曲の三一致」の第一個條也。古來何れの戯曲作家も此約束には服従せざるなし。勿論行動の一致とは必ずしも一事件を限りて描けとの意にあらず。多くの事件を結び付くるは毫も妨げなし。たゞ是等の事件は相連係して、中心の主眼の發展に與らざる可からず。無意味の各個運動をなすべからず。

時間の一致

所謂戯曲の三一致の中に在りて最も肝要なるものは右の行動の一致にして、他の二個條はしかく肝要ならず。他の二個條とは時間の一致及び場所の一致、是也。先づ時間の一致を説明せむ。其約束は、戯曲の描く所の事件が二十四時間以上に亘るなかれとの約束也。こ

Lessing.

場所の一致

三一致の價

は希臘劇の性質上自から發生したる規約に過ぎず。希臘劇に在りては、中央の時刻を選定し、過去の事件は對話の中に寓し、又事件の落着は使者をして布告せしむ。かゝる構成法なれば、その描ける事件が廿四時間以上に亘らざるも毫も無理はなかるべし。然るに路易十四世朝の佛國批評家は飽まで此約束を墨守し、之に反するものを罵れり。沙翁の如きは野蠻人と呼ばれたり。されどかゝる僻説は、やがて獨逸の大批評家レッシングによりて打破せられ、今日に於ては全然此約束を遵奉するものなし。

最後に場所の一致とは、事件の起る場所が同一の場所なるべしとの約束也。これも又場の變化に適せざる希臘劇の性質上起りたる規約にして沙翁をはじめ近代の作者達は多くは之を省みず。獨逸にてはその中庸をとり、成るべく同じ場をつゞけ、絶對的に必要を感じずるに至りて之を變更するもの、如し。之を要するに三一致は餘りに拘泥すべからずといへども、其精神

丈を汲みとりて省慮を與へんは必要也。戯曲作者は須らく一致といふことを念頭におき、殊に行動の一致に對しては細心の注意を拂はざるべからず。又或る程度迄は時間と場所との一致も必要なるべし。僅々數時間の中に、妻を娶り、兒を生まれ、その兒が成人して親の仇を十年も捜しまはり、日本はあるか、唐天竺迄足跡遍ねしなど、せんは片腹痛かるべし。

三一致の外にも戯曲の要素は多し。左にその中の肝要なるものをその他 挙げむ。先づ事件は、それ自身に於て完全ならざるべし。その要素 ならず。事件の完全ならんが爲めには、之を形成する所の各部分がそれ、樞要の役目を盡さざるべからず。戯曲には三大部分あり。(一)發端 (二)發展 (三)結末是也。人によりて之に種々の名目を附す。戯曲は通常五幕に分たると、そは便宜上の區別にして、羅典劇より源を發せり。發端は通例第一幕の中に包藏せらる。第二、第三、時とすれば第四幕迄が事件を絶頂に運ぶ。アリスト

(1) Climax.

(1) Tying of the Knot.
(2) The Untying.
(3) Tragedy.

ルの所謂結び方は是也。最後の幕に至りて結末に達す。アリストトルは、之れを解き方と名けたり。第五幕目が甚だ手腕を要する所にし、絶頂に於て集められたる興味を爰に打ち散らしては駄目也。悲劇に在りては、結末——多くは死——は全篇を通じて暗示せらる。之に反して喜劇の結末——多くは結婚——は不意打に出づ。

性格の一貫てふ事が戯曲に肝要なるは説くまでもなし。沙翁が他の群作家の上に超然たる所以、而して其作の千古に不朽なる所以は重にこの點に存ず。

戯曲の要素に關しては爰に筆をとらめ、次に戯曲の種類に就きて一言せんとす。

悲劇は人間の意志が運命と衝突せる場合を表はし、其葛藤及び主人公の破滅を以て一篇をなす。中心の主人公としては

一個人の場合と一團練の場合とあるべし。アリストトルの説けるが如く、悲劇が觀客の心に起さしむるもの

①Chorus.
②Aeschylus.
③Sophocles.
④Samson Agonistes.
⑤Atalanta in Culydon.

⑥Erechtheus.

は憐憫の念と恐怖の念と是也。即ち死者に對する哀憐、同情と、同一の運命が己が頭上に落下せんことを思ひて起す所の畏怖戰慄と是也。かゝる感動は烈しく人心を激動して邪念を拂ひ、劣情を除き、人心を清淨靜穩の状態に留まらしむべし。

希臘の悲劇は甚だ近代の悲劇とは趣を異にし、齊唱を以て始まり、他に一人あり叙事詩を歌ひて多少の動作をなす。エスキラス、ソホクレーズ等は役者の數を増加せしも要するに單純なるものなりき。近代にて希臘の悲劇を模したるは、ミルトンの『サムスン・アゴニステーズ』スウインバルンの『アタランタ・イン・カリドン』『イーレクシエーズ』等是也。

悲劇にありては多數が少數を壓し、一般の法則が一個人を制する場、場合を示す。喜劇は之に反し、個人却つて一般人生の

束縛を壓服し脱却せる場合を示す。元來人生は儘喜劇にありては、すべて事物に對して樂觀をなす。

①Farce.

ならぬものにて、鵝の嘴の齟齬する場合多し。悲劇にては、之が爲めに煩悶を孕み、悲哀を生むも、喜劇にては之が爲めに却て愉快を孕み、滑稽を生む。一方に附隨するは涙、他方に附隨するは笑、其人心を洗滌するは兩者相同じ。悲劇にありては、偶然の過誤に對しても之を重要視して、罪となし、喜劇にありては、人性の弱點に對しても寧ろ同情の眼を以て之を見る。沙翁の描けるフォールスタッフは横から見ても縦から見ても臆病者也。然れども一度之に親めるものは、何となく離れ難き心地す。

喜劇は人物の性格の上に築かれたるあり、又境遇の上に築かれたるあり。又或時は兩者を兼ね有す。此中最上のものは蓋し最後のもの也。沙翁の傑作『御意のまま』、『十二夜』の如き是也。全然境遇の上のみ築かれたる喜劇は劣等のものにして、之を道化劇といふ。沙翁以後の喜劇の名手は、コングリイヴ、ゴールドスミス、シェリダン等是也。今日にありては喜劇の創作の見るべきなし。

喜劇は散文に傾く

悲劇の結末は死也、破滅也。喜劇にありては凡ての人物は相合して圓滿に局を結び、多くは結婚となる。若し、それ形式の上より見れば、悲劇は詩の一體をとるが多く、喜劇は散文に傾く。悲劇には、雄渾莊重の句に富み、結構、修辭、皆複雑也。喜劇に在りては、活氣に充ち、警句に富み、殊に輕妙愉快なる舌戰に作者の手腕をあらはす。

多くの戯曲中には悲劇ともつかず、又喜劇ともつかぬ一種のものあり。英國にては往々之を「悲喜劇」といふ。此名稱は頗る不都合也。何となれば悲劇なると同時に又喜劇なるべき戯曲は存在する筈なければ也。成程人生は此兩元素より成立し、而して戯曲は人生の縮寫なるが故に、一見すればかゝる種類の戯曲も成立し兼ねまじきが如くなるも、實は決して然る能はず。レッシングの言へるが如く、萬能の神にあらざれば、千差萬別窮極なき人生全體の觀客たる能はず。人間の視界と能力とは限りあり。故

(1)Tragi-Comedy.

調和劇

(1)Monologue.
(2)Dialogue.

に人間は或る見地に立ちて人生を觀察せざるべからず。換言すれば、悲劇か、喜劇か其一を擇ばざる可からず。

とは言ふもの、純悲劇、純喜劇以外に、第三者が存在するは事實也。かゝる劇にありては悲劇的葛藤あれど、全然破滅を意味する程の高度に達せず、又喜劇的の惡るふさげもなく、其中間をとりて進行す。こは悲喜劇の混合にあらずして、悲劇的分子と喜劇的分子との調和也。沙翁の「顯理五世」の如きは其代表者なるべし。「ヴェニス商人」「シムベリン」等も見方によりては調和劇の部類に入れ得べきが如し。

悲劇が通常詩の一體、殊に無韻詩をとり、喜劇が散文に傾けるは既劇詩の外形に説きたり。又劇詩は齊唱、獨白、及び對話を利用す。

齊唱は希臘劇に多く用ゐられて近代には廢れたり。之に比すれば獨白は遙かに多く、かの「ハムレット」の獨白の如きは世人の冷ねく知る所也。されど殆んど全部を占むるは對話也。對話

は何より早く埒があき、且人物の動靜性格等をあらはすに屈竟のものなるが故に人生を描寫する所の戯曲によりて、殆んど唯一の武器として寵用せらるゝは無理ならぬ事といふべし。

下篇 英詩の韻律法

(一) アングロ・サクソン時代の韻律法

英詩にあらはれたる韻律法は、時代により非常の變遷あり。これより歴史的に其大體を説かんとす。便宜上之を三期に分つべし。(一) アングロ・サクソン時代 (二) 過渡時代 (三) 近代、是也。

アングロ・サクソン時代に行はれたる韻律法は専ら頭韻法也。其醇正なるものは之を『ビ・オウルフ』に見出すべし。頭韻法にありては、一句は前後二部に分れ、而して前半

と後半とは「強音のシラブル」各二個を有す。その中、後半の第一の「強音のシラブル」が標準韻にして、前半の「強音のシラブル」

(1) Alliteration.
(2) Accented Syllable.

の一個若くは二個は之と同韻なるを要す。又最後の「強音のシラブル」は標準韻と同韻なる能はず。但し交互韻は許可せらる。次ぎにあらゆる正式の例を示さむ。

n : n a : x	Beowulf was breme blaed wile sprang.
n : b a : h	thær neð kythe stæl fringed stefn.
n : b h : a	thæ tæron monige the his meæg rethron.
n : x a : x	Beowulf mæthelode beorn hegthæwes.
x : n a : x	hi hine mæthæron to brimes farohe.

さて韻の性質は如何にといふに、(一) 凡ての母韻は皆同韻と見做さる。(二) 子韻は各個獨立して他の子韻と同韻なる能はず。(三) 母韻は之を一個の子韻と見做して取扱ふ。故に母韻若くは子韻と押韻する能はず。(四) 「弱音のシラブル」は韻に關係なし。

「弱音のシラブル」は「強音のシラブル」の間にはなくてもよけれど、前半句、後半句ともに全然「弱音のシラブル」を缺く能はず。又「弱音のシラブル」は或程度迄は、任意に附加し得るの自由を有

(1) Unaccented Syllable.

す。但し其附加すべき場所は通例後半句の首部に多し。押韻すべきシラブルの選擇には複雑なる規則ありて一々擧げ難きも、大體に於ては主要なる語、例へば名詞、有力なる代名詞等にかゝると知るべし。兎に角有力なる語には是非ともアクセントあるを要す。

頭韻法の盛時は八九世紀にして、その後次第に亂雜なる過渡期に入れり。

(二)過渡時代の韻律法

過渡期は大體十世紀の終より十五世紀に亘る。後世に勢力を占め
混亂の たる尾韻は、早くも十世紀頃より使用し始められ、或
時代 者は往時の如く頭韻法を守るかと思れば、或者は獨り
尾韻のみを用ゐ、又或者は兩者を併用せり。一例を擧ぐれば

“Gold georne, gin Iweorfde,

“sine, searwite, sih, hearwite.”

の如き是也。最後に此混亂の間より二條の潮流を生めり。一方は保守派にして、古頭韻法の復活をつとめぬ。一〇六五年に成りたる『エドワード』の如き是也。比較的新らしくして有名なるはラングランドの『ビールズ・ブローマンの夢』なるべし。他は進歩派にして、かの有名なる『キング・ホルン』の如きは、在來の長句をとりて二短句とし、之を連絡するに尾韻を以てせり。即ち後世の二行韻節の形をなせり。概して南方はノルマン人の感化強ければ、シラブルの計算も佛國に倣ひ、之に反して北部は頑として舊法を固守し、時に過度に頭韻を配列して却つて正式を脱せり。

最後に、アングロ・サクソン時代の舊韻法は消滅し、近代の新韻律法は次第に生れ出でたり。シッペルの指示する所によれば、過渡時代に英詩に輸入されたる外國の韻律法は三種あり。即ち(一)羅典七強音體 (二)佛蘭西の短二韻節體 (三)同じく佛蘭西のアレクザンドリ

(6) French Short Couplet.
(7) French Alexandrine.

(1) King Edward.
(2) Piers the Plowman.
(3) King Horn.
(4) Couplet.
(5) Latin Septenary.

ン、是也。近代韻律法の發達に最も貢獻したる詩人はチロソー也。サリイ、ワイアット等の功績も亦至大なりき。

(三)近代の韻律法

近代英詩の韻律法は外國、殊に以太利、佛蘭西より輸入されたるもの多く、強音と弱音との配列嚴密にして、規律あり、近代韻律の特徵

諧調あること、幼稚なる頭韻法の比にあらず。又押韻の方法、韻節の規則等も複雑にして巧緻を極めたり。左に順序を逐ひて其構成の主要をのべんとす。

二個若くは二個以上のシラブルより成る所の語は、其シラブルの一個に必らず強音を有す。begin, attend, 等にありて強音

音は最後のシラブルにあり。happy, lady, 等にありて強音は最初のシラブルに在り。古代の英詩にては單に「強音のシラブル」のみを數へて、「弱音のシラブル」は殆んど度外視せるが近代

(1) Accent.

(1) Foot.
(2) Iambus.
(3) Trochee.

の韻律法にては、各行「強音のシラブル」に制限あると同時に、又「弱音のシラブル」にも制限あり。

扱てこの「強音のシラブル」と「弱音のシラブル」とを二個若くは二個以上取りあはせたるものを音脚といふ。されば一個の音脚には必らず、二個若くは二個以上のシラブルあり、而して、其中の一個は常に「強音のシラブル」也。此音脚を以て音律の單位とす。

音脚の種類 「強音のシラブル」と「弱音のシラブル」の配合の結果

爰に五種の音脚を生ず。左に擧ぐる所即ち是也。
(一)アイアムバス 此音脚は一個の「弱音のシラブル」と、之に續ける「強音のシラブル」とより成立す。今xを以て「弱音のシラブル」を代表せしめ、又yを以て「強音のシラブル」を代表せしむれば、其公式はxy也。例へば

perhaps, condemn, compel.

(二)トロッキー 此音脚は前者を顛倒したるもの、其公式はyx也。

例へば、

Gentle, lark, river.

(三)アナヘスト 三シラブルより成り、其公式は、 $\times \times \times =$ 也。例へば

disappear, comprehend, separate.

(四)ダクテイル 前者の顛倒にして、其公式は、 $\times \times \times =$ 也。例へば

Impetly, novelty, sin, fire.

(五)アムフィブラック これも三シラブルより成り、其公式は、 $\times = \times =$

\times 也。例へば

Respiring, midnight, tremulous.

詩の各行は是等音脚を基礎とし、少きは一音脚を以て一行を成し、多きは七音脚若くは八音脚の多きに達す。然れども最も普通なるは、一行の音脚が三より六に達する間也。餘り音脚の數多ければ、之を二分し得べく、又往々散文と接近して妙味を失す。

爰に一言注意せざるべからざるは、實際上音脚は必らずしも悉く

(1)Anapest.
(2)Dactyl.
(3)Amphibrach.

三三三三三三三三
四二二二二二二二
三三三三三三三三
二二二二二二二二
一一一一一一一一
スレノナリ

⊙Spondee.

變則の 完備せるもののみならずして、多少の自由の許さる
場、合、事是也。即ちトロキイ若くはダクテイルの如く、
第一のシラブルに強音の存する場合には、句の結末に於て往々「弱
音のシラブル」を脱する事あり。又同様にアムフィブラックに於て
然ることあり。又アイアムバス及びアナペストの如く最後のシラブ
ルに強音の來る場合には、句の結末に「弱音のシラブル」を附加す
る場合あり。其附加せるシラブルは勿論勘定以外のものにして、一
個の音脚と見做すことなし。時とすれば又アイアムバスを以て成れ
る詩句中に突如としてトロキイを挿みて變化を與へ雄勁の度を高
むることあり。又三シラブルより成る音脚にありては、屢々「弱音
のシラブル」を放棄す。時とすれば又「強音のシラブル」が二個連
續することあり。之をスボンディイといふ。スボンディイは英詩に
ては一の音脚と認めずして、アイアムバス若くはトロキイの變形
とす。

尙ほ注意すべきは、詩にありては、強音の置き方に頗る自由の存する事是也。通常の談話にては如何に長き語も主強音は常に一個也。然れども詩にありては、二個も三個も同様の價值を與ふ。例へば、

Inheritors' of infirmity,

の如き見るべし。又或る語にありては、前後の關係上、談話には全くなき強音を附せらる。一シラブルの語の強音の有無の如きも全く音律の都合上也。

接近せる二個の短シラブルは往々音律の都合上一個の如く發音されることあり。例へば、

The mny' | thut' | ions seat' | inent' | adine'.

の如し。時とすれば又二個のシラブルを一個とせんが爲めに一個の子韻若くは一シラブル全體を省略することあり。例へば、

*even for even
taken for taken*

*ever for ever
'you for begun.*

の如し。

英詩にありて最も普通に行はるゝは、アイアムビツク格也。尙ほアイアムビツク格 我邦に於て七五調が最も廣く行はるゝに似たり。左にこの格に屬する所の諸種類を列舉せんとす。

(一)一音脚體 これは一般に使用せられず。單に韻節の結末、又は中間に挿まるゝのみ。ヘリック作「水仙」に適例あり。

We die

As your honrs do, and dry

Away,

Like to the summer rain.

(二)二音脚體 同じくヘリック作中に在り。一般に類例少なし。

Because I do

Begin to woo,

Sweet singing Lark,

Stanza.
of Daffodils.

Be thou the clerk, etc.
(三)三音脚體 英文學中に類例甚だ少なし。

The king was on his throne ;
His subjects thronged the hall.

(四)四音脚體 此種類に至りて漸く多く、全篇之を使用して作られたる例少なからず。此體は民謠體に寵用せられ、又抒情詩にも少なからず。之を最も多く使用したるは、スコット、チャロサー、コーリヂ、バイロン、バットモリア等は也。

The fire, with well dried logs supplied
Went rattling up the chimney wide.

民謠にては四音脚の句と三音脚の句とを交互に使用し、第二句と第四句とに押韻せるもの多し。故に此體には民謠體の稱あり。又讃歌にも見出すべし。マコーリアの『古羅馬の歌』、スコットの『最後の樂人の歌』其例也。スコットは時とすれば勝手に三音脚の句と四音脚の句とを混用せることあり。

(1)Lays of Ancient Rome.
(2)Lay of the Last Minstrel.

(1)Heroic verse.
(2)Blank verse.

They set him high upon a cart
The haingun rode below ;
They drew his hands behind his back
And bare his noble brow.

(五)五音脚體 英詩中にアイアムビククの五音脚體より多きはなし。他の諸體の何れに比するも確かに千倍はあるべしといふ。げに古來有名の詩人にして一人も之を使用せざるはなかりき。これ此體が長さに失せず、短かに馳せず、最も中庸を得て作者の手腕を示すを得れば也。此體は最も威儀あるが故に叙事詩又は劇詩には殆んど必ず用ゐらる。
アイアムビククの五音脚體は有韻及び無韻の二種に分つべし。有韻のものは之をヒーロイック體といひ、諸種の韻節をなす。韻節につきて後に説くべし。又無韻のものは、之を無韻詩といふ。無韻詩も亦甚だ重要の一體也。こも又後段に説明すべし。
(六)六音脚體 此體も存在せざるにあらねど、之を専用すれば單調

○Alexandrine.

に陥りて妙ならず。さればエリザ朝の初期には流行せしもヒロイックの爲めに全然壓倒せられたり。何故に單調なるかといふに、六脚と稱すれど、實は三音脚二句を合併し、強いて一行に印刷したる感あり。従つて中央に音の休止あり。毎行然るが爲めに終に讀者を倦ましむ。此體を一名アレクザンドリンといふ。他まで之を使用せるは十七世紀のドレイトン是也。

Of Albion's glorious isle the wonders whilst I write,

The sunny varying soils, the pleasures infinite,

Where heat kills not the cold, nor cold expels the heat,

The culms too mildly small, nor winds too roughly great,

Nor night doth hinder day, nor day the night doth wrong;

The Summer not too short, the winter not too long.

此アレクザンドリンもスペンサーの如く韻節の結末に用ゐ、若くはドライデンの如くヒロイック二行韻節中に偶々挿入すれば中々棄て難きものとなる。後者より一例を引かむ。

So pale grows Jenson in Religion's sight,

○Rhyming syllable.

So flies and so dissolves in supernatural light.

以上挙げたる所にて大體は盡きたり。七音脚體、八音脚體も稀れには存在し、中には成效を收めたるもあれど、多くは兩斷し得べく、一般には用ゐられず。因て之を省略し、次にトロケイック格を説かんとす。

トロケイック格

(一)トロケイック二音脚體、三音脚體等は甚だ類例少なし。今スウィンバーリンの作中より二音脚體の例を

引くべし。

Dust that covers

Long dead lovers

Song blows off with breath that brightens;

At its flashes,

Their white ashes

Burst in bloom that lives and lightens.

(二)四音脚體 これは頗る普通也。就中押韻せるものを普通とす。その時は最後に別に有韻のシラブル一個を附す。所謂ライミング・シ

ラブル是也。スコット、クーバー、バルンズ等の諸作に見るべし。無韻のものは其數多からず。ロングフェローの『ハイアウォーサー』は無韻のトロケイック四音脚體中殆んど唯一のものたり。

Then the little Hiawatha

Learned of every bird the language,

Learned their names and all their secrets,

How they built their nests in Summer, &c.

(三)五音脚體 五音脚はアイアムビックに占有せられ、他の格には甚だ少なし。有韻のものにてはアーノルド嘗て之を『トリストラムとイスールト』に用ゐ、無韻のものはブラウニング之を『今一語』に用ゐたり。然れども英文學中此種に屬するものは幾何もなし。

(四)六音脚體 之も甚だ少し。この體は威儀ありて、往々悲哀の調を帶ぶ。スウィンバルン時に之を用ゐたりといふ。

(五)八音脚體 テニスンの『ロックスリイホール』あり。外には例少なし。

- (1)Hiawatha.
- (2)Tristan and Isolt.
- (3)One Word More.
- (4)Locksley Hall.

英詩にはアナベスト格を用ゐたるもの甚だ少なく、而してその稀アナベスト格に存在するものは多くは三音脚體若くは四音脚體也。アナベストとアイアムバスとは共に『弱音のシラブル』を首に置きて甚だ類似せるが爲めに、兩者は往々混用せらる。今スコットより一例を引かむ。

The Moon's on the lake, and the mist's on the tree,

And the chan has a name that is nameless by day.

見るべし、第一句の最初の音脚はアナベストにあらずしてアイアムバス也。

(一)ダクテイルニ音脚體 フッドの『長太息の橋』の一部、さてはダクテイル格 かの有名なるテニスンの『輕騎兵の突撃』は之を使用せり。

Cannon to right of them,

Cannon to left of them,

Canon behind them,
Volleyed and thundered.

終の二句は、ダクティルとしては一個の「弱音のシラブル」を缺きたり。因て之を不完全なるダクティルと見るも可、又トロキイと見るも不可なし。何となればダクティルとトロキイとは其性質相類似し、恰かもアイアムバスとアナベストとの關係あれば也。

(二)ダクティルの三脚、四脚は存在すれど其數少なし。前者の例をブラウニングより引かむ。

This is a spry the hind ching to.

後者の例はビショップ・ヘーメルより引かむ。

Brightest and best of the sons of the morning.

アムフィブ 之に属する英詩は甚だ少數也。キアメルの『ロルド・ウ
ラック格 リンの娘』はアムフィブラク四脚體也。

There came to the bench a poor exile of Erin, &c.

以上余は音脚に關する規則の梗概を説き終れり。然れども他に重

(1) Lord Ullin's Daughter.

(1) Rhyme.
(2) Masculine or single.

韻 大なる一要素あり。韻是也。アングロ・サクソンの韻律法に於ても、押韻が重大なる一要素なるは既に説きたり。然れどもアングロ・サクソンの詩にありては、押韻は一行の中に限られ、又其韻はシラブルの頭首にありたり。所謂頭韻是也。今日、通常韻といふは尾韻のこと也。

扱て二個のシラブルが押韻をなすには三個の條件に應ずるを要す。

(一)母韻及び之に續く所の音は同一なるべき事。例へば long song 又は sen, free の如きは同韻也。勿論韻は耳に訴ふるものなれば、字の綴りには構はず、唯音の同一を期するものと知るべし (二)母韻の前の字は異なるべき事。例へば green, spleen の如きは是也。h は明亮なる發音を有するものと見做なされざるが故に、heart, art は押韻に不適當也。(三)韻を踏む所のシラブルは是非強音を有すべき事。但しこれは多少破れる作者あり。

韻が一行の最後のシラブルに附きたる時は之を男性韻若くは單韻

①Feminine or double.
②Don Juan.

と云ふ。sing, ring, など。の如し。若し又強音並びに韻が最終より二、目のシラブルに来る時は之を女性韻若くは二重韻と云ふ。em'ning, run'ning, などの如き是也。かゝる場合には大抵最後の「弱音のシラブル」も押韻する也。強音と韻とが最終より三、目のシラブルに来る事あり。かゝる時は之を三重韻と云ふ。pit'ful, city fall. の如き押韻法是也。時とすればかゝる場合には二個の強音に押韻する事あり。

Heaven send it happy deat'
Earth lend it sap' queer!

の如き是也。二重韻、三重韻は押韻の妙を逞うするに最良の武器、殊に滑稽の手段に寵用せらる。バイロン三重韻を「ドン・ヂェ・アン」の中に用ゐたり。

He learned the art of riding, fencing, grammar,
And how to scale a fortress—or a manery.

押韻は句の後部に行はるゝが常なれど、時に句の中央にも行はるゝ事なきにあらず。勿論かゝる場合は甚だ稀也。今一例をスコット

より取らむ。

Then up with your cup, till you stagger in speech,
And match me this catch, though you stagger and screech,
And drink till you reek, my merry men each.

母韻のみ、兩者相同じく、他は全く異なる所の一種の韻をアッソナンスといふ。佛蘭西其他羅典系の國語には許さるれど英語にては正則とせられず。blackness, dances. 若くは roming, floating. の如き是也。

英語は以太利、獨逸等の國語に比して甚だしく韻に貧なるが故に半韻だけ押韻することあり。

Sun Gane
Love Move
Allow Bostow
Ever River

などの如し。

韻節とは、句の或る集合を指す。二行にて一集合をなすあり、又四行にて一集合をなすあり。其他種々あり。而してかく集合された

①Assonance.
②Stanza.

各種の韻節も普通なる韻節を列記すべし。

(一)二行韻節 これは韻節中最も短きもの也。此種の韻節中最も普通なるはアイアムビックの五音脚體にして、一般に之をヒロイック・カプレットと稱す。之を使役せる作者は極めて多く、寧ろ之を使役せざる作者を數ふるが捷徑かも知れず。四音脚の二行韻節も存在す。バイロン、スコット等時に之を用ゐたり。

(二)三行韻節 この韻節は稀に見るのみ。テニスン（一）の「二」の聲は之にて書かれたり。

(三)四行韻節 普通に用ゐらるゝ韻節にして、押韻の方法は交互になすものを正式とす。

How happy is he born and taught
That served not another's will
Whose armour is his honest thought
And simple truth his highest skill.

- (1) Couplet.
- (2) Heroic Couplet.
- (3) Triplet.
- (4) Two Voices.
- (5) Quatrain.

變格にては「（一）」と押韻するあり。テニスン之を「イン・メモリアム」に使用して名あり。ベンジョンスン、ブライオール等も使用せり。又「（二）」と陥める變格あり。これはフィッツジェラルドの「オスマア・カイヤーム」の譯詩によりて有名となれり。尙ほ四行韻節の配置方につきては混雜せる規則あれど爰には畧す。

(四)ライム・ロイヤル これはチャロサーの愛用したる韻節にして、ヒロイック體の七行より成立す。其押韻の方法は普通「（一）」也。「泥の物語」より一節を擧げむ。

My Coming is so wayk, O blisful queene,
For to declare thy grete worthinesse
That I ne may the weichte not sustene,
But as a child of twelf monthle old, or lesse,
That can nymes my word expresse,
Right so fore I, and therfor I you preye,
Gydeh my song that I shal of you seye.

- (1) Omar Khayyam.
- (2) Rime Royal.
- (3) Prioresses Tale.

(1) Spenserian Stanza.
(2) Castle of Indolence.

ライム・ローヤルなる名稱はチェームス一世が使用せるに基因す。
(五) スペンサーの韻節。こは九行より成る。スペンサー初めて之を『神女王』に使用せるより此名稱あり。其形式は、最初の八行は
最後の一行は、押韻の方法は、是也。此韻節の特長は其流麗自在なるに在り。トムスン之を『懶眠の城』に用ゐ、バイロン之を『チャイルド・ハロルド』に用ゐて益々有名となれり。

Childe Harold was he light:—but whence his name
 And lineage long, it suits me not to say;
 Suffice it, that perchance they were of fame,
 And had been glorious in another day;
 But one sad losel sells a name for aye,
 However mighty in the olden time;
 Nor all that heralds rake from coffin'd clay,
 Nor florid prose, nor honeyed lies of rhyme,
 Can blazon evil deeds, or consecrate a crime.

- (1) Ottava Rima.
- (2) Isabella.
- (3) Sonnet.
- (4) Octave.
- (5) Sestette.

(六) オッタヴァ・リマ、スペインサーの小品、バイロンの「ドン・ジューアン」キーツの「イサベラ」等に用ゐられたる八行の韻節にして、その押韻は *abababoo* 也。

(七) ソンネット體 以太利より輸入されし一體也。行數は十四にして、押韻その他に一定の規則ありて、頗る八釜敷もの也。沙翁は盛んにこの體を作りしが、その妙味は別問題として、形式は以太利の正體にあらず、其押韻は *ababododofos* とありて、即ち單に三個の四行韻節と一個の二行韻節の集合より成立する自個流の短詩に過ぎずと評せらる。ミルトンに至りてピートルルク流の正式のソネットを作り。即ち全體は前八行と後六行とに分れ、其押韻法は *abbaabba=cdcdcd* 也。但しミルトンのソネットも形式は正しけれど内容は正しからずと稱せらる。以太利の正式のソネットに於ては獨り形式が前八行と後六行とに分るのみならず、内面の思想も爰に一轉換をなす。然るにミルトンのは同一の考が全體

- (1) Terza Rima.
- (2) Ode to the West Wind.
- (3) Ode.
- (4) Rondel.
- (5) Rondeau.

- (6) Triolet.
- (7) Blank Verse.

に連続す。ウァーズウァース、キーツ、ロセッティ等の近代の諸匠に至りて初めて眞に以太利の標本に接近せるもの、如し。

(八) テルツァリアマ。この韻節はサリイ初めて以太利より輸入したも流行に至らず。近くはシェリイの「西風の歌」之を用ゐたれど、英語にては格別目立たぬ韻法なれば流行には至らず。其規則は、三行づゝの韻節が、左の如く入り混る也。即ち *aba—bcb—ede—ded, &c.*

(九) 其他の韻節。韻節中普通なるものは上にのべたり。他にオードあれど、これはその規則一定せず。又佛國より輸入せるものにはロンドン、ロンドン、トリオレ、其他種々あれど、未だ充分英國に移植されたりとは稱し難きもの、如し。

韻節につきては爰に筆をとゞめ、英國の詩形中最も重要なるもの、一なる無韻詩につきて一言せむ。

無韻詩は比較的近代の産物也。古代の詩にては韻は構造の一致の爲めにその必要品なりき。然れども近代の韻律法は「強音のシテプ

(1) Tristram of Lyonesse.

無韻詩

ル」と「弱音のシラブル」との交代を基本として諧調を求むるが故に韻は必らずしも存在するを要せず。無韻詩の發生は近代英國韻律法の大目標也。これも又以太利より學びしものにして英國に之を輸入したる先鋒は十六世紀のサリイ是也。幾もなく當時の戯曲作家の採用する所となり、マァーロー、沙翁の手にかゝり、劇詩用としての無韻詩の價値は全く確立したり。續きてミルトン出て、之を「失樂園」に用ゐ、叙事詩と無韻詩とは又殆んど離るべからざる關係を生じぬ。キーツの「エンディミオン」スウィンバルンの「トリストラム」バイロンの「チャイルド・ハロルド」等は押韻したる僅少の例外のみ。他の長篇の作は大抵無韻詩也。

無韻詩といふは、勝手に無韻の詩形の何れをも指すに、あらず。通常アイアムピックの五音脚體の無韻のものを指すは既に述べたる所也。外にも無韻のものは多少存在すれど、是等は寥々として言ふに足らず。

英文學史索引

- Absalom and Achitophel*, 256
Adam Bede, 817
Adam Blair, 533
 Addison, Joseph, 291, 296
Adonais, 491
 Adrian, 23
Adventures of a Guinea, The, 400
Aeneid, Dryden's, 259
After Dark, 830
 Ainsworth, William Harrison, 573
Alastor, 489
Albion's England, 149
Alchemist, The, 202
Alciphron, 301
Alexander and Campaspe, 182
Alexander's Feast, 257, 8
 Alfred, King, 29
All Fools, 208
Allegro, L', 227
 Allen, Grant, 853
All for Love, 266
Alton Locke, 823
Ametia, 349
Amoretti, Spenser's, 137
Anatomy of Melancholy, The, 240
Ancient Mariner, The Rime of the, 449
 Andreas, 26
 Andrews, Bishop Lancelot, 169
Andromeda, Kingsley's, 822
Angel in the House, The, 683
Anna St. Ives, 406
Annus Mirabilis, 255
Arcadia, The, 159
 Arnold, Edwin, 841
 Arnold, Mathew, 660, 753
Arrangement of Paris, 182
Arthur, King and the Arthurian Legend, 42, 44
 Ascham, Roger, 153
Astrophel and Stella, 126
As You Like It, 188
Atheist's Tragedy, The, 209
Atlanta in Calydon, 651
 Augustine, St., 22
Aurora Leigh, 685
 Austen, Jane, 538
 Austin, Alfred, 840
Ayebite of Inwyt, The, 40
B
 Bacon, Francis, 164
 Bagehot, Walter, 860
 Barchour, John, 107
Barchester Towers, 828
Bard, The, 414
Barnaby Rudge, 773
Baron's Wars, The, 150
 Barrie, Mathew, 849
Barry Lyndon, 781
Battle of Breenheim, The, 456
Battle of the Books, The, 323
 Beaconsfield, Benjamin Disraeli, Viscount, 569
 Beaumont, Francis and Fletcher, John, 205
Beau's Stratagem, The, 270
 Beckford, William, 406
 Beddoes, Thomas Lovell, 513
 Bede, 27
Bee, The, 375
Beggar's Opera, The, 289
Belle Dame Sans Merci, 503
Bells and Pomegranates, 612
Beowulf, 16
 Berkeley, Bishop George, 300
 Berners, Lord, 102
 Besant, Walter, 848
Biographia Literaria, 449
 Black, William, 854

英詩の種類及韻律法終

Classicalism and Romanticism, 249
Cloister and the Hearth, The, 829
Cloud, The, 491
 Clough, Arthur Hugh, 677
Coelia, 127
 Coleridge, Samuel T., 444
 Collier, Jeremy, 271
 Collins, Wilkie, 829
Colonel Jack, 315
Comedies of Courtship, 852
Comedy of Errors, The, 187
Complaint of Deor, The, 15
Complete Angler, The, 241
 Comus, 227, 8, 9
Confederate, The, 269
Confessio Amantis, 79
Confessions of an English Opium-Eater, 528
 Congreve, William, 268
Coningsby, 570
Consolation of Philosophy, Alfred's, 30
 Constable, Henry, 127
Cooper's Hill, 260
Coquet's Heart, 299
Corsair, The, 474
 Couch, Arthur Thomas Quiller, "Q", 853
Country Wife, The, 268
 Cowley, Abraham, 260
 Cowper, William, 420
 Crabbe, George, 423
 Crasshaw, Richard, 223
Crimean War, The, 747
 Crockett, Samuel Rutherford, 855
Crotchet Castle, 575
Cuckoo and the Nightingale, The, 92
Cuckoo Song, 51
Cymbeline, 190
 Cynewulf, 25
 Dame Striz, 174
Dance of the Seven Deadly Sins, 112
 Daniel, Samuel, 127

Darwin, Charles Robert, 751
David and Bethabe, 183
David Copperfield, 775
 Davidson, John, 813
Decline and Fall of the Roman Empire, The, 380
Defence of Guenevere, The, 679
Defence of Poesy, Sidney's, 166
 Defoe, Daniel, 309
 Dekker, Thomas, 208
Delia, 127
 Denham, Sir John, 260
Deor, The Complaint of, 15
 De Quincey, Thomas, 523
Deserted Village, The, 373, 376
 De Tabley, Lord, 843
Dialogues Between Hyllas and Philonous, 301
Diuna, 127
 Dickens, Charles, 762
Dictionary, Johnson's, 366
Dissection of a Beau's Head, The, 299
 Dr. Faustus, 180
Dr. Jekyll and Mr. Hyde, The Strange Case of 833
Dolly Dialogues, 852
Don Juan, 476
 Donne, John, 128
 Douglas, Gawain, 112
 Dowden, Edward, 858
 Doyle, Arthur Conan, 850
Dramatis Personae, 620
 Drayton, Michael, 127, 150
Dream, Lyndsay's, 113
 Dryden, John, 254, 266
Duchess of Malfy, The, 209
 Dunbar, William, 111
Dunciad, The, 285
 Dyer, John, 414
Earthly Paradise, The, 679
Ecclesiastical Polity, 166
Eden Bower, 647
 Edgeworth, Maria, 542

三

Blackmore, Richard, 854
Blackwood's Magazine, 517
 Blake, William, 425
Blessed Damozel, The, 641
Blind Beggar of Alexandria, 208
 Boethius, Alfred's, 30
Book of Snobs, The, 782
Book of the Duchess, The, 63
Borough, The, 424
 Borrow, George, 755
 Boswell, James, 367
Boyle Lectures, 302
Bride of Abydos, The, 474
 Bridges, Robert, 843
Brigadier Gerard, 851
Brigand, 574
Broken Heart, The, 211
 Brontë, Anne, 802
 Brontë, Charlotte, 800
 Brontë, Emily, 802
 Brooke, Stophord, 859
Brothers, The, 442
 Browne, Sir Thomas, 239
 Browning, Elizabeth Barrett, 613, 684
 Browning, Robert, 610
 Brunton, Mrs., 543
Brut, Layamon's, 43
 Buckle, Henry Thomas, 747
 Bunyan, John, 241
 Burke, Edmund, 383
 Burney, Frances, 541
 Burns, Robert, 426
 Burton, Robert, 240
 Butler, Samuel, 261
 Byrom, John, 414
 Byron, George Gordon, Lord, 470
 Caelmon, 24
 Caine, Thomas Henry Hall, 851
 Calderon, 565
Caleb Williams, 406
Calendar, The Shepherd's, 135
 Campbell, Thomas, 509

Campion, Thomas, 130
Canterbury Tales, The, 67
 Capgrave, John, 96
Captain Singleton, The Life of, 315
Card Dealer, 647
 Carew, Thomas, 222
 Carlyle, Thomas, 708
 Caroline Poets, 219
Casa Guidi Windows, 685
Castle Rackrent, 543
Castle of Indolence, The, 412
Castle of Otranto, The, 402
 Cato, 272
Catriona, 833
Cat's Pilgrimage, The, 743
 Caxton, William, 89
Caxtons, The, 566
Cecilia, 542
 Cenci, 490
Changeling, The, 210
 Chapman, George, 151, 207
Characteristics, Shaftesbury's, 302
Charlemagne Romances, 46
Charles O'malley, 576
Chastelard, 653
 Chatterton, Thomas, 419
 Chaucer, Geoffrey, 61
 Chesterfield, Philip Dormer Stanhope, Earl of, 389
Child Harold, 473
 Christ, 26
Christabel, 449
Christian Morals, 239
Christmas Carol, 774
Christina, 622
Chrysal, 400
Citizen of the World, The, 375
City Madam, The, 211
City of Dreadful Night, The, 675
Civilization in Europe, History of, 748
 Clarendon, Edward Hyde, Earl of, 238
Clarissa, 336
 Clarke, Samuel, 302

二

Gorboluc, 147, 176
Gorgeous Gallery of Gallant Invasions, The, 123
 Gosse, Edmund, 857
 Gower, John, 79
 Gray, Thomas, 413
Great Revellion, History of the, 238
 Green, John Richard, 747
 Greene, Robert, 158, 183
 Grendel, 17
 Greville, Fulk, Lord Brooke, 125
Gulliver's Travels, 326
Guy Mannering, 557
Guy of Warwick, 49

Haggard, Henry Rider, 849
 Hakluyt, Richard, 168
 Hall, Bishop Joseph, 307
 Hallam, Henry, 597
Hamlet, 190
Handling Sin, 40
 Hardy, Thomas, 847
Harold, 566
 Harrison, Frederick, 861
 Harry, Blind, 107
Harry Lorrequer, 576
Haunted and the Haunters, The, 568
 Harvey, Gabriel, 134
Havelock the Dane, 49
 Hawes, Stephen, 102
 Hazlitt, William, 521
 Hemans, Mrs., 513
Henrietta Temple, 570
Henry, VIII., 190
 Henry, William Earnest, 843
 Herbert, George, 224
Hereward the Wake, 825
Hernsprong, 406
Hermit, The, 288
Hero and Leander, 149
Heroes and Hero-Worship, 718
 Herrick, Robert, 219
Hesperides, 220

Heywood, Thomas, 209
Bind and the Panther, The, 256
History of England, Froude's, 741
 " Macaulay's, 705
 " Hume's, 387
 Hobbes, Thomas, 239
 Hogg, James, 513
 Holcroft, Thomas, 406
Holy Dying, 238
Holy Living, 238
Holy War, The, 242
 Homer, Pope's, 283
Honest Whore, 208
 Hood, Thomas, 511
 Hooker, Richard, 166
 Hope, Anthony, 852
House of Life, The, 648
Hours of Idleness, 472
 Hrothgar, 17
Hudibras, 261
 Hume, David, 387
Humphrey Clinker, 395
 Hunt, Leigh, 512, 533
Husband's Message, The, 26
 Hutton, Richard, 861
 Huxley, Thomas Henry, 751
 Hygelac, 17
Hypatia, 824
Hyperion, 499

Idea, 127
Killer, The, 364
Idylls of the King, The, 602, 607
Imaginary Conversations, 534
In a Gondola, 622
 Inchbald, Mrs., 406
Indian Queen, 266
In Memoriam, 598, 600
Intimation of Immortality, 442
Irish Melodies, 507
Isabella, 500
Italian, The, 403
It is Never too Late to Mend, 829

Edinburgh Review, The, 510
Edward II., 181
Elegy Written in a Country Churchyard, 414
Elene, 26
 " Eliot, George", 811
Endymion, Beaconsfield's, 571
Endymion, Keat's, 499
England's Helicon, 123
England's Heroical Epistles, 150
English Bards and Scotch Reviewers, 473
English Humorists, 792
Enoch Arden, 603
Enquiry into the Principles of Morals, 388
Eothen, 747
Epic of Women, The, 682
Epithalamium, Spenser's, 137
Esmond, 789
Essay Concerning the Human Understanding, 263
Essay on Criticism, 281
Essay on Man, 285
Essays in Criticism, 661, 753
Essays of Elia, 520
 Etherege, Sir George, 268
Euphues and Euphuism, 155
 Evans, Mary Ann (George Eliot), 811
Evan Harrington, 835
Eve of St. Agnes, 500
Evelina, 541
Every Man in (and out of) his Humour, 201
Excursion, The, 435, 442
Exercise of the Fan, 299
Expansion of England, The, 748
Fable of the Bees, The, 303
Faerie Queen, The, 138
Fair Quarrel, A, 210
Faithful Shepherdess, The, 206
Falkland, 163
Far from the Madding Crowd, 848

Farquhar, George, 269
 Ferrier, Susan, 543
 Fielding, Henry, 338
Fine Lady's Journal, 299
 Fitzgibbon, Edward, 665
Flaming Heart, The, 224
 Fletcher, John, 205
Flower and the Leaf, The, 92
 Ford, John, 159, 211
Forsaken Merchant, 664
Four Georges, 793
Frankenstein, 405
Frederic the Great, Carlyle's, 720
 Freeman, Edward Augustus, 745
French Revolution, The, 717
Friar Bacon and Friar Bungay, 183
 Froude, James Anthony, 739
Fudge Family, The, 508
 Fuller, Thomas, 238
Game of Chess, A, 210
Gammer Gurton's Needle, 176
Garden of Cyrus, The, 239
 Garnett, Richard, 858
 Gascoigne, George, 148
 Gaskell, Mrs. (Elizabeth Stevenson), 808
Gauvain and the Green Knight, 58
 Gay, John, 288
Gebir, 511
General Sketch of European History, A, 746
Genesis and Exodus; the Caelmonian, 25
 Geoffrey of Monmouth, 40
Gesta Romanorum, 49
Giaour, 474
 Gibbon, Edward, 379
 Gissing, G. Robert, 856
Goblin Market, 688
 Godwin, William, 406, 486
Golden Butterfly, The, 848
 Goldsmith, Oliver, 369
Good-natured Man, The, 272, 373

Mackenzie, Henry, 400
 Macpherson, James, 417
Maid's Tragedy, The, 206
Malcontent, The, 209
 Malet, Lucius, 856
 Malory, Sir Thomas, 96
 Mandeville, Bernard de, 303
 Mandevill, Sir John, 83
Manfred, 476
 Manning, Robert, 39
Man of Feeling, The, 400
Man of Mode, The, 268
 Marius, 755
 Marlowe, Christopher, 149, 178
Marmion, 462
 Marryat, Captain Frederick, 577
 Marston, John, 209
Martin Chuzzlewit, 774
Mary Unwin, 421
Mary Barton, 809
 Massinger, Philip, 210
Match at Midnight, 210
 Maturin, Charles Robert, 405
Maud, 601
 May, Thomas, 238
May Day, 208
Melmoth the Wanderer, 405
Memorials of J. W. Carlyle, 744
Men and Women, 620
Merchant of Venice, 187
 Meredith, George, 669, 834
Merry Wives of Windsor, The, 188
 Middleton, Thomas, 203
Midshipman Easy, 578
 Mill, John Stuart, 748
Mill on the Floss, The, 817
 Milton, John, 225, 240
Minstrelsy of the Scottish Border, 461
Mirror for Magistrate, The, 147
Moll Flanders, 315
Monk, The, 404
Monsieur d'Olive, 208
Moonstone, The, 830

Moore, Thomas, 506
 More, Sir Thomas, 98
 Morley, John, 860
 Morris, William, 678
Morte d'Arthur, Malory's 96
Mother Hubbard's Tale, 137
Mother's Picture, 421
Much ado about Nothing, 188
Music and Moonlight, 682
My Last Duchess, 621
My Novel, 566
Mysteries of Udolpho, 403
 *Nash, Thomas, 162
Nemesis of Faith, 740
New Arabian Nights, 831
Newcomes, The, 791
 Newman, Cardinal John Henry, 752
Newspaper, The, 423
New Way to Pay Old Debts, 211
New Wonder, 210
Nicholas Nickleby, 772
Nightmare Abbey, 575
Noctes Ambrosianae, 532
Norman Conquest; History of, 746
 North, Sir Thomas, 153
Novels by Eminent Hands, 782
 Oecleve, Thomas, 93
Ode for Music, 414
Ode on a Distant Prospect of Eton College, 414
Ode on a Grecian Urn, 501
Ode on Intimation of Immortality, 442
Ode on the Nativity, 227
Ode to Duty, 413
Ode to Evening, 413
Ode to the Memory of Mrs. Anne Killigrew, 258
 Odes, Collin's, 413
 " Kent's, 503
Old Curiosity Shop, 773
Old Fortunatus, 208

Jack Shepherd, 573
Jack Wilton, 163
 Jacobs, William Wymark, 855
 James I. of Scotland, 108
Jane Eyre, 803, 804
Jenny, 647
Jew of Malta, The, 180
John Gilpin, 421
John Sterling, The Life of, 720
 Johnson, Samuel, 363
 Johnstone, Charles, 400
Jonathan Wild, 342
 Jonson, Ben, 199
Joseph Andrews, 340
Journal to Stella, 325
Jungle Book, 1st and 2nd, 847
Junius, Letters of, 1390
 Keats, John, 492
Kehama, The Curse of, 454
Kidnapped, 833
Kim, 847
King Horn, 48
King John, Shakespeare's, 187
 Kingsley, Charles, 821
 Kingsley, Henry, 826
King's Quair, The, 108
King's Tragedy, 648
 Kipling, Rudyard, 844
Kubla Khan, 449
 Kyd, Thomas, 182
Lady of Pleasure, The, 212
Lady of the Lake, 462
Lalla Rookh, The, 509
 Lamb, Charles, 518
Lamia, 500
 Landor, Walter Savage, 510, 534
Last of Barons, The, 565
Lavengro, 756
 Layamon, 43
Lay of the Last Minstrel, The, 462
Lays of Ancient Rome, 697

Lee, Sidney, 859
Legend of Good Women, The, 67
Legend of Montrose, The, 555
Leila, 565
Letter on Tovelation, 263
Letters on a Regicidal Peace, 386
Letter to a Noble Lord, A, 386
Letters, Chesterfield's, 389
 " of Junius, 390
 Lever, Charles, 575
Leviathan, 239
 Lewis, Mathew Gregory, 404
Liberty, Thomson's, 412
Library, The, 423
Licia, 127
Life and Death of Jason, The, 679
Life of Byron, Moore's, 509
Life of Johnson, 367
Life of Nelson, 457
Life of Scott, 533
Life's Handicap, 847
Light of Asia, The, 841
Lives of the Poets, Johnson's, 366
 Locke, John, 263
 Lockhart, John Gibson, 532
 Lodge, Thomas, 127, 157
London, Johnson's, 363
London Magazine, The, 517
Love, The, 449
Love for Love, 269
 Lovelace, Richard, 223
Lover's Melancholy, The, 211
Love's Labour Lost, 187
Lycidas, 227, 9
 Lydgate, John, 94
 Lyly, John, 155, 182
 Lyndsay, Sir David, 112
Lyrical Ballads, 436
 Lytton, Edward George Bulwer, Lord, 562
 Macaulay, Thomas Babington, 693
Macbeth, 189

- Rasselas*, 365
 Rende, Charles, 828
Reasonableness of Christianity, 263
Reflexions on the French Revolution, 385
Religio Medici, 239
Reliques, Percy's, 417
Reminiscences, Carlyle's, 721, 744
Riddles, 26
Renaissance in Italy, History of the, 755
Revenge's Tragedy, 209
Review, Defoe's, 313
Revolt of Islam, 489
 Rich, Barnabe, 159
 Rice, James, 848
 Richardson, Samuel, 332
Richard Feverel, The Ordeal of, 835
Rienzi, 565
Ring and the Book, The, 624
Rivale, 39
Rivals, The, 272
 Robertson, William, 388
Robin Hood, 50
Robinson Crusoe, 314, 316
Roderick Random, 391
 Rogers, Samuel, 512
Romance of the Forest, The, 403
Romany Rye, The, 756
Romola, 818
Rookwood, 573
Rosalynde, 158
Rose Mary, 647
 Rossetti, Christina Georgina, 687
 Rossetti, Dante Gabriel, 633
 Rossetti, Maria Frances, 634
 Rossetti, William Michael, 631
 Rowley, William, 210
Ru'áiyát of Omár Klayyám, 668
Ruin, The, 26
Rule a Wife and Have a Wife, 206
 Ruskin, John, 724
 Russel, William Clark, 855
 Sackville, Thomas, 146, 177

- Saintsbury, George, 859
Salmacis and Hermaphroditus, 149
Samson Agonistes, 235
 Sandys, George, 224
Sapho and Phaon, 182
Sartor Resartus, 715
 Satanic School, 467
Saxon Chronicle, 30
Scenes of Clerical Life, 816
School for Scandal, The, 272
Schoolmaster, The, 153
 Scott, Michael, 580
 Scott, Sir Walter, 458, 545
Seafarer, The, 26
Seasons, The, 411
Sense and Sensibility, 539
Sentimental Journey, A, 398
Seven Wise Men, Book of, 49
Shadow of Dante, The, 634
 Shaftesbury, Anthony Ashley Cooper, 302
 Shakespeare, William, 184
 Shelley, Percy Bysshe, 483
 Shelley, Mary, 405, 486
 Shenstone, William, 414
Shepherd's Calendar, The, 135
Shepherd's Week, The, 288
 Sheridan, Richard Brinsley, 272
She Stoops to Conquer, 272
Sherlock Holmes, The Memoirs of, 850
The Adventures of, 850
 Shirley, James, 212
Shoemaker a Gentleman, 210
Shoemaker's Holiday, The, 208
Shortest Way with the Dissenters, 312
Short Studies, 743
Sick King of Bokhara, The, 664
 Sidney, Sir Philip, 125, 126
Siege of Corinth, The, 474
Sigurd the Volsung, 680
Silas Marner, 817
Silent Woman, The, 202
Simple Story, A, 406

- Old Mortality*, 555
Old Wife's Tale, 183
Oliver Cromwell, Letters and Speeches
of, 719
Oliver Twist, 772
Olney Hymn, 421
Omar Khayyam, 667
On Attaining the Age of Twenty-three, 227
On Translating Homer, 661
 Orm, 38
Ormutum, The, 38
Orphan, The, 267
 Oshaughnessy, Arthur Edward, 682
Ossian, 417
Ohello, 189
 Otway, Thomas, 266
 Ouida, (Louise de la Ramée), 855
 Overbury, Sir T., 307
 Page, Robert, 406
Palace of Pleasure, 154
Pamela, 334
Paradise Lost, 231
Paradise of Dainty Devices, The, 123
Paradise Regained, 234
Paris Sketch-Book, The, 751
Parish Register, 423
Parliament of Love, The, 211
 Parnell, Thomas, 289
Parthenophil and Parthenophe, 127
Pastorals, Pope's, 280
 Pater, Walter Harotio, 754
Patient Grissel, 208
 Patmore, Coventry, 683
Pauline, 619
 Payn, James, 855
 Peacock, Thomas Love, 574
 Peacock, Reginald, 95
 Peele, George, 182
Pelham, 563
Pendennis, The History of, 787
Penseroso, II, 227
 Percy, Thomas, 417
Peregrine Pickle, 395
Perkin Warbeck, 211
Philaster, 206
Philip Sparrow, The Book of, 103
 Phillips, Stephen, 842
Phillis, 127
Phoenix, The, 26
Pickwick Papers, The, 767
Piers Penniless, 163
Piers Plowman, 78
Pilgrim's Progress, The, 241
Pilgrims on the Rhine, 568
Pippa Passes, 619
Plague of London, The, 315
Plain Dealer, The, 268
Poems and Ballads, 651
Poems by Two Brothers, 596
Poetical Rhapsody, 123
Poetical Sketches, 425
Polyolbion, The, 150
 Pope, Alexander, 278
 Porter, Jane, 543
Portrait, The, 647
Pre-Raphaelite School, The, 631
Prince Otto, 832
Princess, The, 600
 Prior, Mathew, 288
Prisoner of Zenda, The, 852
Progress of Poesie, 414
Prometheus Unbound, 490
Pseudodoxia Epidemica, 239
 Putterham, George, 168
Quarterly Review, The, 517
Queen Mab, 489
Queen Mother and Rosamond, 651
 Radcliffe, Mrs., 403
 Raleigh, Sir Walter, 168
Ralph Roister Doister, 176
Rambler, The, 364
Rape of the Lock, The, 282

Vathek, 406
 Vaughan, Henry, 224
Venice Preserved, 266
Venus and Adonis, 149
Vicar of Wakefield, The, 373, 4
Vice Versa, 856
Village, The, 423
Villette, 807
Vivian Grey, 569
Volpone, 202

W
Wace, 42
 Waller, Edmund, 260
 Walpole, Horace, 402
 Walton, Izack, 240
Wanderer, The, 26
 Ward, Mrs. Humphry, 853
Warren, The, 828
 Warner, William, 149
 Watson, Thomas, 127
 Watson, William, 842
Waverley and the Waverley Novels,
 557, 59
Wealth of Nations, The, 389
 Webbe, William, 168
 Webster, John, 208
Wessex Tales, 848

Wesley, Charles and John, 389
Westward Ho! 825
 Weyman, Stanley John, 856
What You Will, 209
 White, William Henry, 855
White Devil, The, 209
White Ship, The, 648
Widsith, 15
Wife's Complaint, The, 26
 Wilson, John, 532
Windsor Castle, 573
Winter's Tale, A, 190
Wishes to his Supposed Mistress, 224
Woman in White, 830
Woman Killed with Kindness, 209
Woman Beware Woman, 210
Woods of Westerncote, The, 672
 Wordsworth, William, 432
Wuthering Heights, 802
 Wyatt, Sir Thomas, 103
 Wycherley, William, 268
 Wyclif, John, 81

Y
Yeast, 823

Z
Zanoni, 568
Zepheria, 127

The End

Sir Charles Grandison, 337
Sir Roger the Coverley, 298, 307
Sizis, 301
Sister Helen, The, 644
 Skelton, John, 102
Sketches by Boz, The, 765
Skylark, The, 491
 Smith, Adam, 389
 Smollett, Tobias (George), 394
Smuggler, The, 574
Sohrab and Rostum, 664
Songs of Innocence and Experience, 426
Sonnets from the Portuguese, 686
 Southey, Robert, 452
Spanish Gipsy, 756
Spanish Curate, 206
Spanish Friar, 255
Spectator, The, 295
 Spencer, Herbert, 749
 Spenser, Edmund, 133
 Steele, Richard, 293
Steel Glass, The, 148
 Stephen, Leslie, 856
 Sterne, Laurence, 396
 Stevenson, Robert Louis Balfour, 830
Stones of Venice, The, 729
Strange Story, A, 568
Su'line and Beautiful, The, 384
 Suckling, Sir John, 223
 Surrey, Henry Howard, Earl of, 104
 Swift, Jonathan, 320
 Swinburne, 650
 Symonds, John Addington, 755
 Symons, Arthur, 843

T
Table Talk, 421
Tale of a Tub, A, 322
Tale of Two Cities, The, 777
Tales, Ancient and Modern, 257
Tales from Shakespeare, 519
Tamburlaine, 179
Taming of the Shrew, 188
Tusk, The, 421

Tattler, The, 292
 Taylor, Bishop Jeremy, 238
Tears of Fancy, The, 127
Tempest, The, 150
 Temple, Sir William, 261
 Tennyson, Alfred, Lord, 594
 Thackeray, William Makepeace, 779
Thalaba, 454
 Thomson, James (1st), 411
 Thomson, James, (2nd) 673
Thoughts on Education, 263
 Tillotson, John, 263
Tintern Abbey, 442
His Pity She's a Whore, 211
Tom Jones, 343
Tom Jamb, 339
Totle's Miscellany, 123
 Tournour, Cyril, 209
Tower of London, The, 573
Traitor, 212
Traveller, The, 373
Treasure Island, 832
Treatise of Human Nature, 388
 Trevisa, John of, 83
Tristram and Iseult, 664
Tristram Shandy, 397
Troilus and Cressid, Chaucer's, 67
 Trollope, Anthony, 826
True-Born Englishman, The, 311
Twelfth Night, 188
Two Gentlemen of Verona, 187
Twopenny Postbag, The, 508
 Tyndale, Matthew, 100
 Tyndall, John, 750

U
 Uall, Nicholas, 176
Unknown Eros, The, 681
Urn Burial, 239
Utopia, 99

V
 Vanbrugh, Sir John, 269
Vanity Fair, 783
Vanity of Human Wishes, The, 364

英文學史正誤

頁	行(欄)	誤	正
一〇六	六ト九	侵入	侵入
一〇八	一	ロスガ	ロスガ
二〇四	七	ヨークシヤ	ヨークシヤ
二〇六	欄	Message	Message
三〇一	九	エールフリツク	エールフリツク
三〇三	一	ノーザムフリア	ノーザムフリア
三〇五	一	チビア	チビア
三〇九	八	數字	數字
三三〇	九	レトサイサ	レトサイサ
三三三	一〇	「忍容」	(符を脱す)
三三九	六	ホッカ	ホッカ
三四〇	八	より	より
三六〇	六十	什	什
三六九	欄	Sidney	Sidney
三九四	一	ソトス	ソトス
三九六	一	祖といふ	祖といふ
三九五	二	情詩界	情詩界
三九七	六	もが	もの
三九八	三	デーニ	デーニ
三九九	七	ソトス	ソトス
四〇〇	欄	Edmond	Edmond
四〇一	一	三三七	三三七
四〇二	二	三三九	三三九
四〇三	三	三四〇	三四〇
四〇四	四	三四一	三四一
四〇五	五	三四二	三四二
四〇六	六	三四三	三四三
四〇七	七	三四四	三四四
四〇八	八	三四五	三四五
四〇九	九	三四六	三四六
四一〇	一〇	三四七	三四七
四一一	一一	三四八	三四八
四一二	一二	三四九	三四九
四一三	一三	三四〇	三四〇
四一四	一四	三四一	三四一
四一五	一五	三四二	三四二
四一六	一六	三四三	三四三
四一七	一七	三四四	三四四
四一八	一八	三四五	三四五
四一九	一九	三四六	三四六
四二〇	二〇	三四七	三四七
四二一	二一	三四八	三四八
四二二	二二	三四九	三四九
四二三	二三	三四〇	三四〇
四二四	二四	三四一	三四一
四二五	二五	三四二	三四二
四二六	二六	三四三	三四三
四二七	二七	三四四	三四四
四二八	二八	三四五	三四五
四二九	二九	三四六	三四六
四三〇	三〇	三四七	三四七
四三一	三一	三四八	三四八
四三二	三二	三四九	三四九
四三三	三三	三四〇	三四〇
四三四	三四	三四一	三四一
四三五	三五	三四二	三四二
四三六	三六	三四三	三四三
四三七	三七	三四四	三四四
四三八	三八	三四五	三四五
四三九	三九	三四六	三四六
四四〇	四〇	三四七	三四七
四四一	四一	三四八	三四八
四四二	四二	三四九	三四九
四四三	四三	三四〇	三四〇
四四四	四四	三四一	三四一
四四五	四五	三四二	三四二
四四六	四六	三四三	三四三
四四七	四七	三四四	三四四
四四八	四八	三四五	三四五
四四九	四九	三四六	三四六
四五〇	五〇	三四七	三四七
四五一	五一	三四八	三四八
四五二	五二	三四九	三四九
四五三	五三	三四〇	三四〇
四五四	五四	三四一	三四一
四五五	五五	三四二	三四二
四五六	五六	三四三	三四三
四五七	五七	三四四	三四四
四五八	五八	三四五	三四五
四五九	五九	三四六	三四六
四六〇	六〇	三四七	三四七
四六一	六一	三四八	三四八
四六二	六二	三四九	三四九
四六三	六三	三四〇	三四〇
四六四	六四	三四一	三四一
四六五	六五	三四二	三四二
四六六	六六	三四三	三四三
四六七	六七	三四四	三四四
四六八	六八	三四五	三四五
四六九	六九	三四六	三四六
四七〇	七〇	三四七	三四七
四七一	七一	三四八	三四八
四七二	七二	三四九	三四九
四七三	七三	三四〇	三四〇
四七四	七四	三四一	三四一
四七五	七五	三四二	三四二
四七六	七六	三四三	三四三
四七七	七七	三四四	三四四
四七八	七八	三四五	三四五
四七九	七九	三四六	三四六
四八〇	八〇	三四七	三四七
四八一	八一	三四八	三四八
四八二	八二	三四九	三四九
四八三	八三	三四〇	三四〇
四八四	八四	三四一	三四一
四八五	八五	三四二	三四二
四八六	八六	三四三	三四三
四八七	八七	三四四	三四四
四八八	八八	三四五	三四五
四八九	八九	三四六	三四六
四九〇	九〇	三四七	三四七
四九一	九一	三四八	三四八
四九二	九二	三四九	三四九
四九三	九三	三四〇	三四〇
四九四	九四	三四一	三四一
四九五	九五	三四二	三四二
四九六	九六	三四三	三四三
四九七	九七	三四四	三四四
四九八	九八	三四五	三四五
四九九	九九	三四六	三四六
五〇〇	一〇〇	三四七	三四七
五〇一	一〇一	三四八	三四八
五〇二	一〇二	三四九	三四九
五〇三	一〇三	三四〇	三四〇
五〇四	一〇四	三四一	三四一
五〇五	一〇五	三四二	三四二
五〇六	一〇六	三四三	三四三
五〇七	一〇七	三四四	三四四
五〇八	一〇八	三四五	三四五
五〇九	一〇九	三四六	三四六
五一〇	一一〇	三四七	三四七
五一一	一一一	三四八	三四八
五一二	一一二	三四九	三四九
五一三	一一三	三四〇	三四〇
五一四	一一四	三四一	三四一
五一五	一一五	三四二	三四二
五一六	一一六	三四三	三四三
五一七	一一七	三四四	三四四
五一八	一一八	三四五	三四五
五一九	一一九	三四六	三四六
五二〇	一二〇	三四七	三四七
五二一	一二一	三四八	三四八
五二二	一二二	三四九	三四九
五二三	一二三	三四〇	三四〇
五二四	一二四	三四一	三四一
五二五	一二五	三四二	三四二
五二六	一二六	三四三	三四三
五二七	一二七	三四四	三四四
五二八	一二八	三四五	三四五
五二九	一二九	三四六	三四六
五三〇	一三〇	三四七	三四七
五三一	一三一	三四八	三四八
五三二	一三二	三四九	三四九
五三三	一三三	三四〇	三四〇
五三四	一三四	三四一	三四一
五三五	一三五	三四二	三四二
五三六	一三六	三四三	三四三
五三七	一三七	三四四	三四四
五三八	一三八	三四五	三四五
五三九	一三九	三四六	三四六
五四〇	一四〇	三四七	三四七
五四一	一四一	三四八	三四八
五四二	一四二	三四九	三四九
五四三	一四三	三四〇	三四〇
五四四	一四四	三四一	三四一
五四五	一四五	三四二	三四二
五四六	一四六	三四三	三四三
五四七	一四七	三四四	三四四
五四八	一四八	三四五	三四五
五四九	一四九	三四六	三四六
五五〇	一五〇	三四七	三四七
五五一	一五一	三四八	三四八
五五二	一五二	三四九	三四九
五五三	一五三	三四〇	三四〇
五五四	一五四	三四一	三四一
五五五	一五五	三四二	三四二
五五六	一五六	三四三	三四三
五五七	一五七	三四四	三四四
五五八	一五八	三四五	三四五
五五九	一五九	三四六	三四六
五六〇	一六〇	三四七	三四七
五六一	一六一	三四八	三四八
五六二	一六二	三四九	三四九
五六三	一六三	三四〇	三四〇
五六四	一六四	三四一	三四一
五六五	一六五	三四二	三四二
五六六	一六六	三四三	三四三
五六七	一六七	三四四	三四四
五六八	一六八	三四五	三四五
五六九	一六九	三四六	三四六
五七〇	一七〇	三四七	三四七
五七一	一七一	三四八	三四八
五七二	一七二	三四九	三四九
五七三	一七三	三四〇	三四〇
五七四	一七四	三四一	三四一
五七五	一七五	三四二	三四二
五七六	一七六	三四三	三四三
五七七	一七七	三四四	三四四
五七八	一七八	三四五	三四五
五七九	一七九	三四六	三四六
五八〇	一八〇	三四七	三四七
五八一	一八一	三四八	三四八
五八二	一八二	三四九	三四九
五八三	一八三	三四〇	三四〇
五八四	一八四	三四一	三四一
五八五	一八五	三四二	三四二
五八六	一八六	三四三	三四三
五八七	一八七	三四四	三四四
五八八	一八八	三四五	三四五
五八九	一八九	三四六	三四六
五九〇	一九〇	三四七	三四七
五九一	一九一	三四八	三四八
五九二	一九二	三四九	三四九
五九三	一九三	三四〇	三四〇
五九四	一九四	三四一	三四一
五九五	一九五	三四二	三四二
五九六	一九六	三四三	三四三
五九七	一九七	三四四	三四四
五九八	一九八	三四五	三四五
五九九	一九九	三四六	三四六
六〇〇	二〇〇	三四七	三四七
六〇一	二〇一	三四八	三四八
六〇二	二〇二	三四九	三四九
六〇三	二〇三	三四〇	三四〇
六〇四	二〇四	三四一	三四一
六〇五	二〇五	三四二	三四二
六〇六	二〇六	三四三	三四三
六〇七	二〇七	三四四	三四四
六〇八	二〇八	三四五	三四五
六〇九	二〇九	三四六	三四六
六一〇	二一〇	三四七	三四七
六一一	二一一	三四八	三四八
六一二	二一二	三四九	三四九
六一三	二一三	三四〇	三四〇
六一四	二一四	三四一	三四一
六一五	二一五	三四二	三四二
六一六	二一六	三四三	三四三
六一七	二一七	三四四	三四四
六一八	二一八	三四五	三四五
六一九	二一九	三四六	三四六
六二〇	二二〇	三四七	三四七
六二一	二二一	三四八	三四八
六二二	二二二	三四九	三四九
六二三	二二三	三四〇	三四〇
六二四	二二四	三四一	三四一
六二五	二二五	三四二	三四二
六二六	二二六	三四三	三四三
六二七	二二七	三四四	三四四
六二八	二二八	三四五	三四五
六二九	二二九	三四六	三四六
六三〇	二三〇	三四七	三四七
六三一	二三一	三四八	三四八
六三二	二三二	三四九	三四九
六三三	二三三	三四〇	三四〇
六三四	二三四	三四一	三四一
六三五	二三五	三四二	三四二
六三六	二三六	三四三	三四三
六三七	二三七	三四四	三四四
六三八	二三八	三四五	三四五
六三九	二三九	三四六	三四六
六四〇	二四〇	三四七	三四七
六四一	二四一	三四八	三四八
六四二	二四二	三四九	三四九
六四三	二四三	三四〇	三四〇
六四四	二四四	三四一	三四一
六四五	二四五	三四二	三四二
六四六	二四六	三四三	三四三
六四七	二四七	三四四	三四四
六四八	二四八	三四五	三四五
六四九	二四九	三四六	三四六
六五〇	二五〇	三四七	三四七
六五一	二五一	三四八	三四八
六五二	二五二	三四九	三四九
六五三	二五三	三四〇	三四〇
六五四	二五四	三四一	三四一
六五五	二五五	三四二	三四二
六五六	二五六	三四三	三四三
六五七	二五七	三四四	三四四
六五八	二五八	三四五	三四五
六五九	二五九	三四六	三四六
六六〇	二六〇	三四七	三四七
六六一	二六一	三四八	三四八
六六二	二六二	三四九	三四九
六六三	二六三	三四〇	三四〇
六六四	二六四	三四一	三四一
六六五	二六五	三四二	三四二
六六六	二六六	三四三	三四三
六六七	二六七	三四四	三四四
六六八	二六八	三四五	三四五
六六九	二六九	三四六	三四六
六七〇	二七〇	三四七	三四七
六七一	二七一	三四八	三四八
六七二	二七二	三四九	三四九
六七三	二七三	三四〇	三四〇
六七四	二七四	三四一	三四一
六七五	二七五	三四二	三四二
六七六	二七六	三四三	三四三
六七七	二七七	三四四	三四四
六七八	二七八	三四五	三四五
六七九	二七九	三四六	三四六
六八〇	二八〇	三四七	三四七
六八一	二八一	三四八	三四八
六八二			

四二四	二「バール」	「スロー」	五三六	一 Lam band	Lamb and	七一〇	一四出せる	出さむ
四二六	一ニシヤ	シヤ	五三八	一ニシヤ	シヤ	七二二	五よりても	ありても
四三三	七シヤ	シヤ	五四〇	一ニ史の女	女史の	七二四	一家〇常	家の常
四三四	八全前	全前	五四二	一四完唇	完唇	七三二	四的の	的に
四四五	一全前	全前	五四八	一金類	金額	七三三	八余は	「余は
四四七	三アルレンシユタ	アルレンシユタ	五五〇	一「蘇國の酋長」	(符々を脱す)	七六七	欄觀迎	歡迎
四四七	七シヤ	シヤ	五七四	三「フォードグエー」	フォードグエー	八〇九	五「アートン」	「アートン
四五三	五當て	當て	五八五	四明劇	明確	八一〇	一〇全前	全前
四五四	ニスコツト	スコツト	九九四	一四シヤ	シヤ	八五四	六「七現代」	最近
四五六	一四詩人を	詩人に	六二二	三反映	反射	八五九	八「ブルック」	ブルック
四五八	一ニ「バール」	見也	六三二	七「アラウニング」	アラウニング			
四五九	一ニ「バール」	ハロ	六三一	一ニ「ロセツテ」	ロセツテ			
四六〇	一ニシヤ	ハロ	六三四	一三二人〇	二人は			
四七二	一四「バール」	ハロ	六四六	一ニ「フルス」	フルス			
四八二	一四「バール」	ハロ	六四七	一〇「イーナ」	イーナ			
五一六	一〇「バール」	ハロ	六四八	一ニ「White」	White			
五一七	一〇「バール」	ハロ	六五八	一ニ「Sturt」	Mary Sturt			
五二一	六全前	全前	六六二	一「ワフズ」	ワフズ			
五二五	八布服	ハロ	六六五	八「カ〇イズ」	カ〇イズ			
五二五	一〇先テ	先テ	六八七	標題「ロセツテ」	ロセツテ			
五二七	五「バール」	ハロ	六九七	九又幾	又幾			
五三三	一四「バール」	ハロ	六九八	一四龍助	龍助			

明治四十年二月廿五日印刷
 明治四十年二月廿八日發行



著作者 淺野和 三郎
 發行兼印刷者 大日本圖書株式會社
 東京市京橋區銀座壹丁目二十二番地

右代表者 宮川保全
 專務取締役

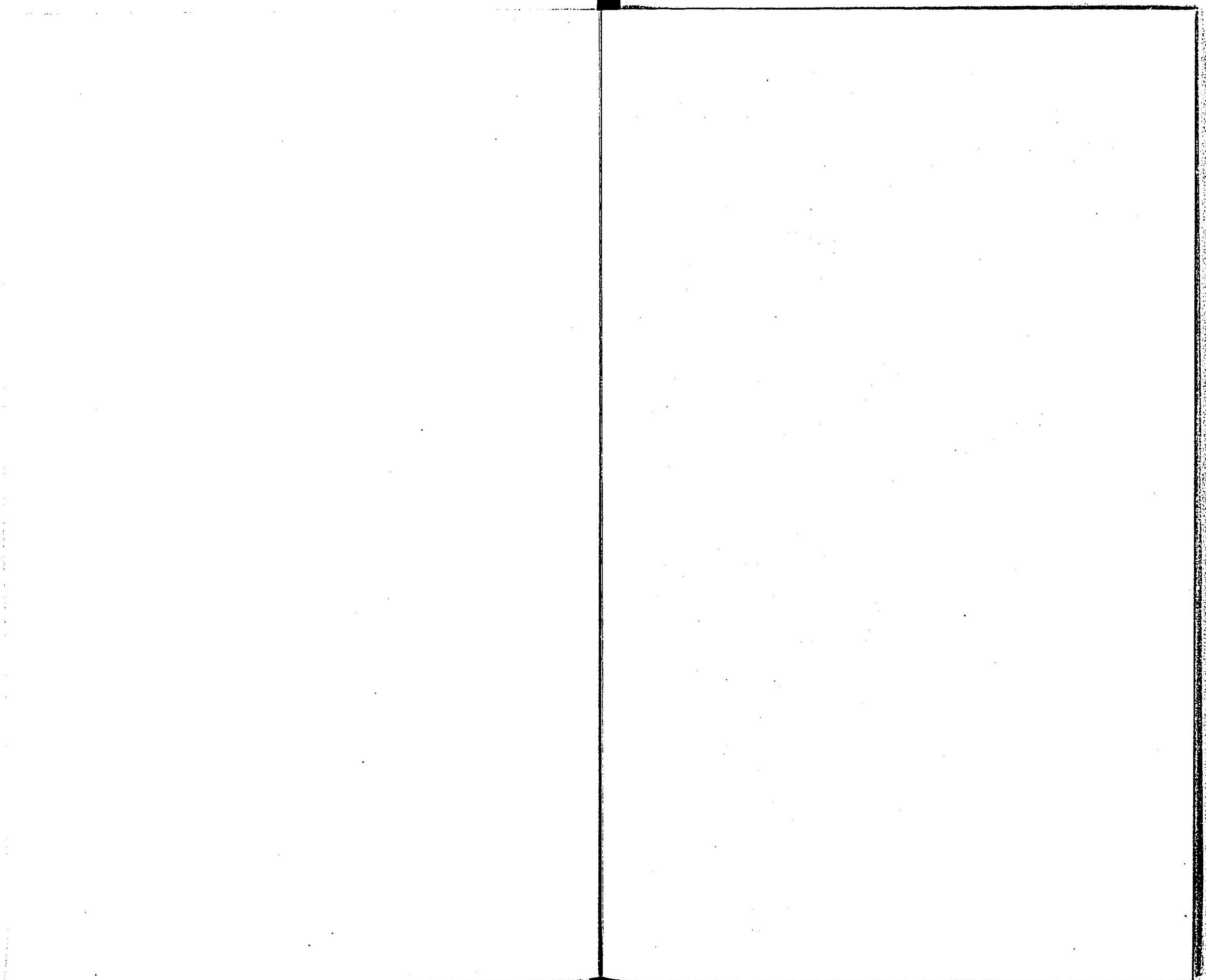
(英文學史典附)
 定價金貳圓五拾錢

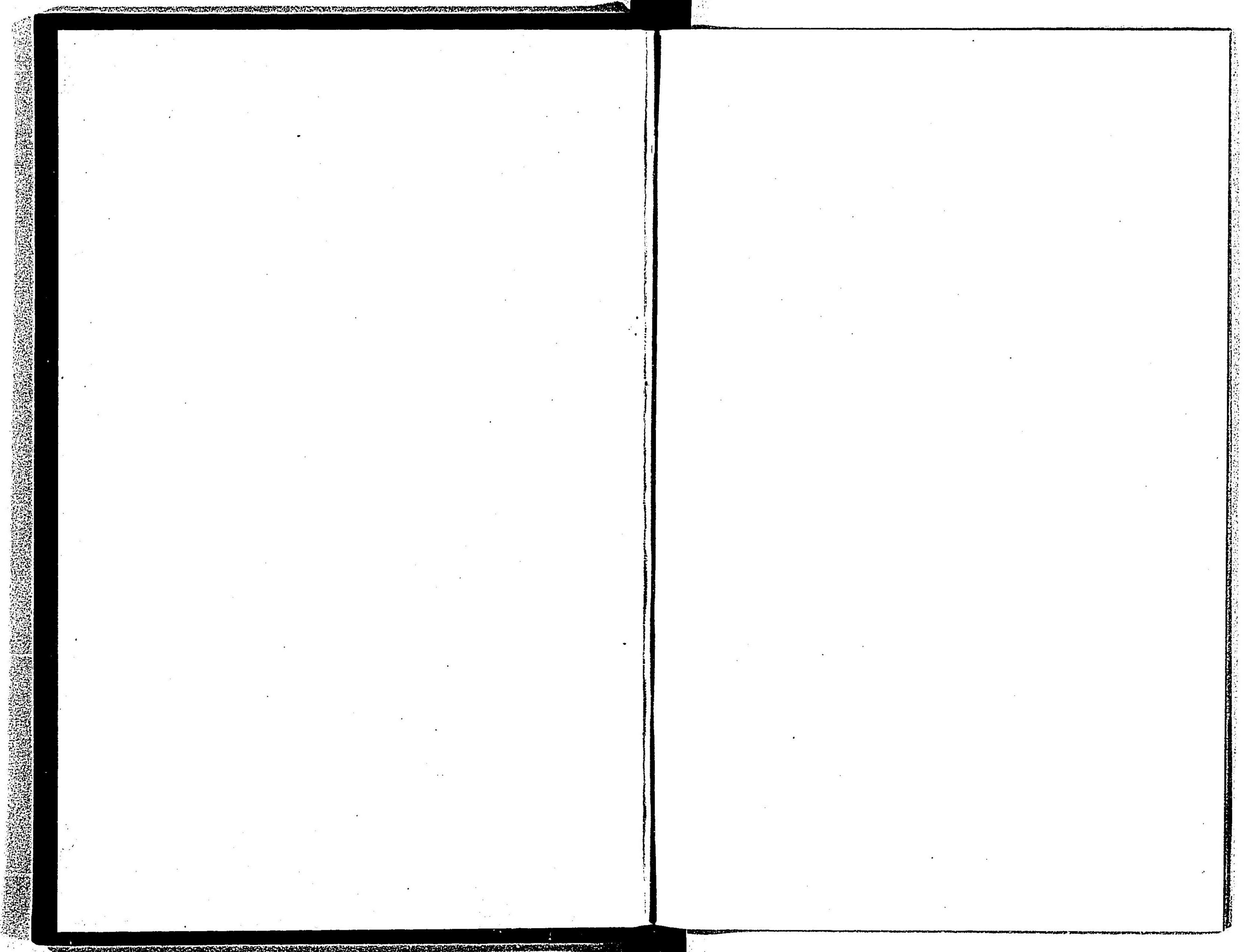
發賣所

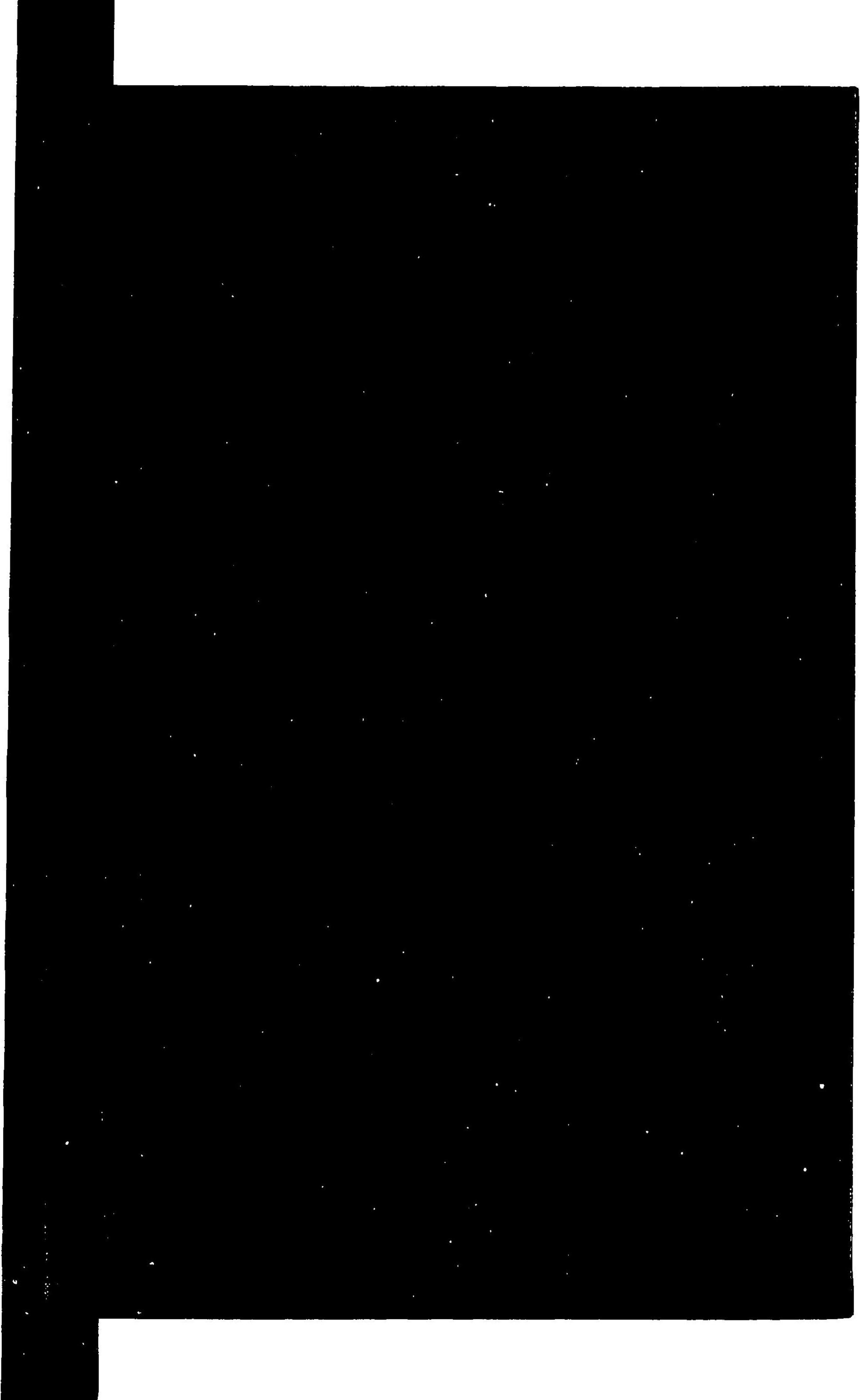
東京市京橋區銀座壹丁目廿二番地
大日本圖書株式會社
 大阪市東區北久太郎町四丁目十七番屋敷
大日本圖書株式會社支社
 各府縣下特約販賣所

大日本圖書株式會社出版圖書特約販賣所

村上商店。川南。既文會。一二堂。富貴堂。地球堂。森江。森江分店。寶文館。杉本。文林堂。水野。東屋。林平。丸善。野野。中西屋。杉村。有隣堂。中央堂。松島。大倉。金剛。北隆館。三友。播磨屋。内田。東海堂。文會堂。池田。其明堂。二松堂。密山房。山岸。弘集堂。田沼。丸屋。正心堂。高桑。高橋。忍波。野島。西村。中山。萬松堂支店。北光社。目黒。山本。柿村。越佐同盟書館。水野。いり江堂。向古堂。煥平堂。淨觀堂。木田。多田屋。伊沼。明文堂。川又。大塚屋。寺田。南龍堂。高木。宮田。内山。永樂屋。平石。青木。永東。吉見。谷崎屋。古澤。三原屋。大石。柳正堂。郁文堂。郁文堂支店。住。日新堂。水琴堂。小林。朝陽館。四澤。四澤支店。盛文堂。丸山。藤崎。松榮堂。虎屋。陽文堂。上野屋。佐藤。近藤。文明堂。會聖堂。今泉。今泉支店。伊吉。盛文堂。日向。牧野。相原。八文字屋。東海林。藤嶋。大澤。中田。環海堂。石林。文港堂。松田。南波。中村。岡島。金川。中川。柳原。小谷。松村。開盛館。寶文館。前川。丸善。田中。三宅。石田。北村。木田。中井。竹内。熊谷。石田。福浦。竹内。木村。藥師寺。西村。中井。虎與號。集英堂。安屋。文進堂。文進堂支店。畝傍館。品川。中村。宇都宮。近田。德岡。今井。久松堂。安達。大倉。川岡。板倉。武内。積善館。芸香堂。原田。含英堂。梅龍堂。日新堂。超世館。平安堂。靜齋堂。香川。開益堂。開文會。龜友堂。向井。土屋。足立。富士越。元野木。積善館。博文社。金文堂。甲斐。野依。梅津。中岡。佐野。牧川。汲古堂。長崎。野澤。谷。古山。金光堂。小澤。新富堂。







40
835

084692-000-7

40-835

英文学史

浅野 和三郎/著

M40

DBA-0016



